

現場説明書（技術的事項）

工事名称 （仮称） 鞆町平地区ふれあい広場便所新築工事

1 現場の状況

工事場所は、福山市鞆町後地地内に位置し、福山市道に鞆 8 9 号線に接しています。

2 別途工事

電気設備工事、給排水衛生設備工事、土木工事

3 福山市週休 2 日適用工事について

（発注者が指定した工事に該当し実施については ○・印のついたものを適用する）

- ・ 発注者指定型
- 受注者希望型

本工事は、持続可能な建設産業の実現に向けた労働環境の改善を目的とする福山市週休 2 日適用工事です。詳細については、別紙（公共建築工事における福山市週休 2 日適用工事の実施について）によるものとします。

4 留意事項

【共通事項】

- (1) 工事に当たっては、交通渋滞、騒音、粉塵、振動、汚染排水等により、近隣住民に迷惑のかからないよう十分配慮してください。
- (2) 工事車両等の進入・退出・停車等に当たっては十分な注意を払い、通行者等の安全を第一に図ってください。
- (3) 資材の搬入、搬出時にはシート等でカバーするなど、土砂・木片等が飛散しないよう注意するとともに、タイヤ等に付着した土砂によって道路汚損等のないように注意してください。
- (4) 道路等を汚損した場合は、速やかに清掃等の復旧を行い、工事期間中の進入、退出路に係る維持管理（舗装・構造物等の保護養生、補修等）は、受注者で行ってください。
- (5) 工事場所外においても、駐車違反、速度制限、積載制限等交通法規を遵守し、事故防止に万全を期してください。
- (6) 工事に係る留意事項は、協力業者、資材納入業者等にも指導を徹底してください。
- (7) 工事現場内の資機材の保管等については、受注者において十分な管理を行い、各工種・工程における廃材・ごみ等についても、受注者の責任において遅滞なく処理してください。
- (8) 実施工程表は、契約後 1 4 日以内に提出し承諾を受けてください。また、施工関係書についても速やかに提出し、承諾を受けてください。
- (9) 工事により周囲の建物や工作物に汚損等が生じた場合は、監督員及び施設管理者に報告するとともに、受注者の責任で速やかに復旧してください。

- (10) 特定建設資材は再資源化に努め、産業廃棄物は関係法令に従い適切に処理してください。
- (11) 工事施工に必要な官公署への手続は、受注者の責任において速やかに行い、手続を行った場合は、速やかに報告してください。
- (12) 受注者は、地元企業、地場製品の活用に努めてください。
- (13) 受注者は、各種工事の職種を問わず、積極的に「技能士」適用に努めてください。

【特記事項】

- (1) 施工区域及び隣接区域で別途工事が行われるので、別途工事業者とスケジュール調整を密に行う必要があります。
- (2) 資材の搬入・搬出及び通勤等は、市街地主要部を通らず、鞆未来トンネル等を使用してください。また、現地周辺道路は狭い箇所も多いため、近隣住民の通行を妨げないよう十分な配慮を行ってください。
- (3) 工事車両等の乗り入れ及び駐車位置は、監督員と事前に協議を行ってください。
- (4) 施工前に、施工図を提出し監督員の承諾を受けてください。

公共建築工事における福山市週休2日適用工事の実施について

- 1 本工事は、契約締結後において受注者の希望により行う、週休2日適用工事である。
なお、本適用工事の取組を希望しない受注者は、5～12に規定する義務を負わない。
- 2 本工事において「週休2日」とは、次の各号に定める区分に応じ、当該各号に定める条件を満たすものをいう。
 - (1) 完全週休2日（土日） 対象期間の全ての週（原則として、土曜日から金曜日までの7日間とする。以下同じ。）毎に現場閉所又は現場休息（以下「現場閉所等」という。）を原則として土曜日及び日曜日に指定し、1週間に2日以上現場閉所等を行うものをいう。ただし、当該期間に、日数が7日に満たない週を含む場合においては、当該週の土曜日及び日曜日の合計日数以上の現場閉所等を行うことで、1週間に2日以上現場閉所等を行っているものとみなす。
 - (2) 月単位の週休2日 対象期間の全ての月毎に現場閉所等の日数が、4週8休（現場閉所等の割合が28.5%（8日／28日）以上のものをいう。以下同じ。）以上であるものをいう。ただし、当該期間に、暦上の土曜日及び日曜日の現場閉所等では4週8休に満たない月又は日数が28日に満たない月を含む場合においては、当該月の対象期間内の土曜日及び日曜日の合計日数以上の現場閉所等を行うことにより、4週8休以上であるものとみなす。
- 3 本適用工事に係る用語の定義は、次の各号に定めるものとする。
 - (1) 現場閉所 巡回パトロール、保守点検等の現場管理上必要な作業を行う場合を除き、現場事務所での作業を含めて1日を通して現場及び現場事務所が閉所された状態をいう。
 - (2) 現場休息 分離発注工事の場合に、各発注工事単位で、現場事務所での作業を含めて1日を通して現場作業が無い状態をいう。
 - (3) 対象期間 工事着手日（準備期間（契約上の工事の始期から現場事務所などの設置、測量、本体工事又は仮設工事のいずれか最も早い日までの期間をいう。）を除く。）から工事の完成日（後片付け期間（契約図書に基づく工事目的物の施工が全て完了し、余剰資材等の撤去、現場の清掃等、工事の完成検査を受けるために必要な作業を行う期間をいう。）を除く。）までの期間をいう。ただし、次の期間は対象期間から除くものとする。
 - ア 年末年始6日間及び夏季休暇3日間
 - イ 工場製作のみが行われている期間
 - ウ 災害時の緊急対応その他受注者の責めによらず、休工又は現場作業を余儀なくされた期間
- 4 受注者は、工事着手までに監督員に対し、週休2日実施の有無及び実施する週休2日の区分について申し出るとともに、実施する場合は、現場閉所（現場休息）計画表兼実績表（以下「計画表」という。）を提出するものとする。
なお、工事着手前に週休2日を実施しない旨を申し出た場合は、工事着手後の週休2日

を実施する旨の申出は受け付けないものとする。

5 受注者は、天候を理由として現場閉所等を行う場合のほか、次に掲げる場合は、監督員との協議により工事着手後であっても週休日を変更することができるものとする。

(1) 品質管理、安全管理等のため作業を継続して行う必要がある場合

(2) その他工程の都合上やむを得ない場合

6 受注者は、当該工事が週休2日適用工事である旨を、施設管理者の承諾を得て所定の様式により公衆の見やすい場所に掲示しなければならない。

7 受注者は、計画表に現場閉所等の状況を記入し、現場閉所等の状況が確認できる書類（工事日誌、出勤簿等をいう。）とともに毎月7日（7日が閉庁日の場合は翌開庁日）まで及び工事完成後速やかに、工事打合せ簿により監督員に提出し、確認を受けるものとする。

8 週休2日を理由とする工期延長については、認めないものとする。

9 受注者は、週休2日を実施できなくなった場合は、速やかにその旨及び理由を工事打合せ簿により監督員に報告するものとする。

10 経費については、次の各号に掲げる現場閉所等の実績に基づき、当該各号に定める補正係数を用いて労務費（予定価格のもととなる工事費の積算に用いる複合単価、市場単価及び物価資料の掲載価格（材工単価）の労務費とする。）及び現場管理費を補正するものとする。

なお、発注時点では、週休2日の経費を見込んでおらず、現場閉所等の実績に基づき、変更契約を行うものとする。

(1) 完全週休2日（土日）

ア 労務費 1.02

イ 現場管理費 1.01

(2) 月単位の週休2日

労務費 1.02

11 週休2日を達成したときは、工事成績評定表の「工程管理」及び「創意工夫」において評価するものとする。

なお、週休2日を達成できなかった場合であっても、工事成績評定は減点しない。

12 計画表その他の提出資料に虚偽の記載等を行った場合は、指名除外措置の対象となる場合がある。

（仮称） 鞆町平地区ふれあい広場便所新築工事

福山市建設局建築部営繕課				2025年 8月	
主務	課員	次長	課長補佐	営繕課長	建築部長

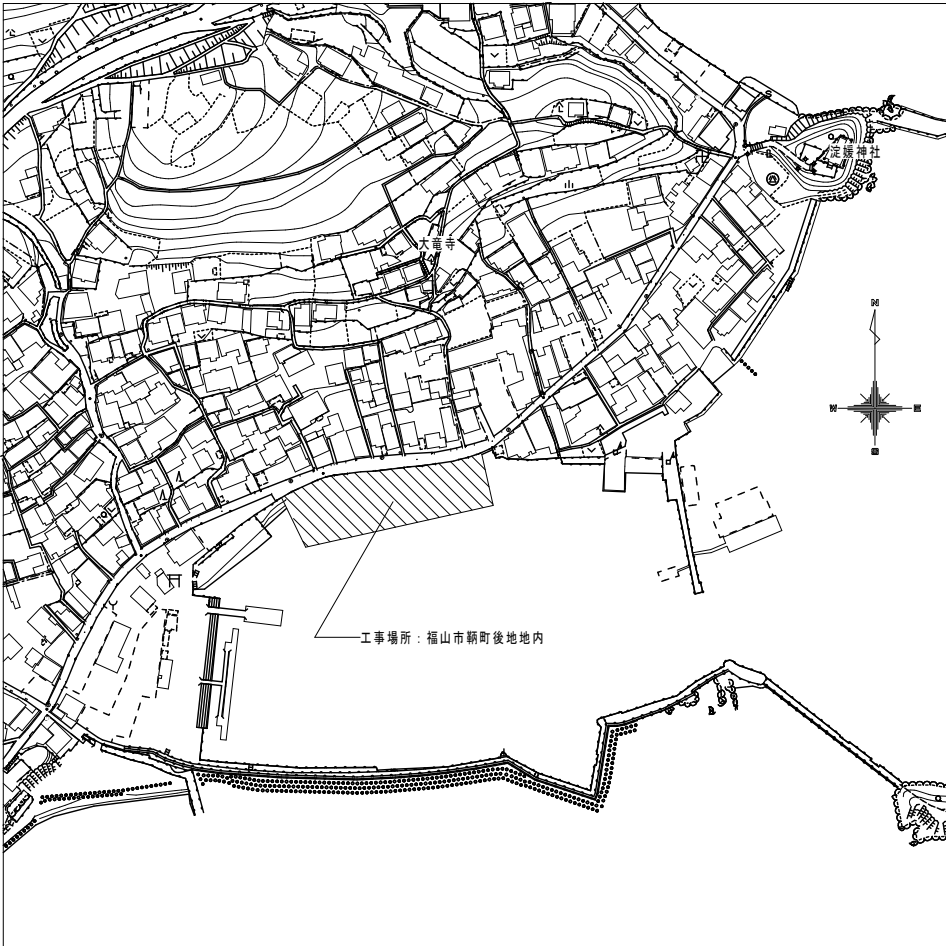
図 面 リ ス ト			
図面番号	図 面 名 称	図面番号	図 面 名 称
A-00	表紙	S-01	建築工事 特記仕様書 構造関係
A-01	図面リスト	S-02	鉄筋工事仕様書 No.1
A-02	建築工事 特記仕様書 No.1	S-03	鉄筋工事仕様書 No.2
A-03	建築工事 特記仕様書 No.2	S-04	基礎伏図
A-04	建築工事 特記仕様書 No.3	S-05	雑詳細図
A-05	建築工事 特記仕様書 No.4		
A-06	工事区分表		
A-07	付近見取図・配置図		
A-08	求積図		
A-09	平面図		
A-10	屋上平面図		
A-11	立面図		
A-12	断面図		
A-13	建具表		
A-14	東屋		
A-15	縁台、テーブル・ベンチ		
A-16	外構図		
A-17	部分詳細図		

[illegible]

章 項		特 記 事 項		章 項		特 記 事 項		章 項		特 記 事 項		章 項		特 記 事 項																																																																																																																																																																																				
7	金属成板張り (14.6.2~3)	<table><tr><th>種 別</th><th>アルミスパンデル (既製品)</th></tr><tr><td>製 法</td><td>・押し出し形材 ・板曲げ</td></tr><tr><td>寸 法 (mm)</td><td>幅板 板厚</td></tr><tr><td>形 状</td><td></td></tr><tr><td>表 面 処 理</td><td></td></tr><tr><td>伸 縮 継 手</td><td>※設けない ・設ける (場所は図示)</td></tr></table>		種 別	アルミスパンデル (既製品)	製 法	・押し出し形材 ・板曲げ	寸 法 (mm)	幅板 板厚	形 状		表 面 処 理		伸 縮 継 手	※設けない ・設ける (場所は図示)	(14.6.2~3)	建築 具 工 事	16	・木下地		<table><tr><th>性能項目</th><th>耐風圧性</th><th>気密性</th><th>水密性</th><th>枠の見込み寸法</th></tr><tr><td>種 別</td><td>※ S-2</td><td>※ A-3</td><td>※ W-3</td><td>(mm)</td></tr><tr><td>・ D種</td><td>※ S-3</td><td>※ A-3</td><td>※ W-3</td><td>(mm)</td></tr><tr><td>・ E種</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> 耐風圧性は取付高さに適用したものとする。	性能項目	耐風圧性	気密性	水密性	枠の見込み寸法	種 別	※ S-2	※ A-3	※ W-3	(mm)	・ D種	※ S-3	※ A-3	※ W-3	(mm)	・ E種					(16.2.4)	11	戸の開閉方式 ・ 図示による (16.9.2)		(16.9.2)	④	錆止め塗料塗り (18.3.2)(18.3.3)		(18.3.2)(18.3.3)(表18.3.1~表18.3.4)																																																																																																																																																
		種 別	アルミスパンデル (既製品)																																																																																																																																																																																															
製 法	・押し出し形材 ・板曲げ																																																																																																																																																																																																	
寸 法 (mm)	幅板 板厚																																																																																																																																																																																																	
形 状																																																																																																																																																																																																		
表 面 処 理																																																																																																																																																																																																		
伸 縮 継 手	※設けない ・設ける (場所は図示)																																																																																																																																																																																																	
性能項目	耐風圧性	気密性	水密性	枠の見込み寸法																																																																																																																																																																																														
種 別	※ S-2	※ A-3	※ W-3	(mm)																																																																																																																																																																																														
・ D種	※ S-3	※ A-3	※ W-3	(mm)																																																																																																																																																																																														
・ E種																																																																																																																																																																																																		
8	アルミニウム製笠木 (14.7.2~3)	※押出形材 ・ 曲げ材 (14.7.2~3) (表14.7.1)	部材の種類 ・ 250形 (呼称肉厚は1.6以上) ・ 300形 (呼称肉厚は1.8以上) ・ 350形 (呼称肉厚は2.0以上)	表面処理 種別 () 種	笠木等の固定金具の工法等 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法 ※ 図示による	表面処理 種別 ・ BB-1種 ・ BB-2種 着色 ・ 標準色 ・ 特注色 (表14.2.1)	屋内の建具 種別 ・ BC-1種 ・ BC-2種 着色 ・ 標準色 ・ 特注色 (表14.2.1)	ステンレス鋼板の種類 ※SUS304、SUS430J1L又はSUS443J1 (16.2.3) (16.6.3)	ステンレス製くつずりの仕上げ ※H L (16.2.4) (16.4.4)	結露水の処理方法 ※図示による (16.2.4)	水切り板、ぜん板 ※図示による (16.2.5)	木下地の内付け建具 ・ 適用する (建具の製造所の仕様) ・ 適用しない (16.2.5)	防虫網 ・ ガラス繊維入り合成樹脂製 ※ 合成樹脂製 ・ ステンレス製 (16.2.3)	経径 ※0.25mm以上	網目 ※16~18メッシュ	防鳥網 ・ ステンレス製 径1.5mm ピッチ15mm	性能及び構造 (16.3.2~16.3.4) (表16.3.1) (表16.3.2)	外部に面する樹脂製建具の性能等級	・ コンクリート系下地及び鉄骨下地	<table><tr><th>性能項目</th><th>耐風圧性</th><th>気密性</th><th>水密性</th><th>枠の見込み寸法</th></tr><tr><td>種 別</td><td>・ A種</td><td>S-4</td><td>W-4</td><td></td></tr><tr><td>・ B種</td><td>S-5</td><td>A-4</td><td>W-5</td><td></td></tr><tr><td>・ C種</td><td>S-6</td><td></td><td></td><td></td></tr></table> ・ 木下地	性能項目	耐風圧性	気密性	水密性	枠の見込み寸法	種 別	・ A種	S-4	W-4		・ B種	S-5	A-4	W-5		・ C種	S-6				<table><tr><th>性能項目</th><th>耐風圧性</th><th>気密性</th><th>水密性</th><th>枠の見込み寸法</th></tr><tr><td>種 別</td><td>・ D種</td><td>S-2</td><td>A-4</td><td>W-3</td></tr><tr><td>・ E種</td><td>S-3</td><td></td><td></td><td>(mm)</td></tr></table> ・ 防音ドアセット、防音サッシの遮音性の等級 ※ 図示による ・	性能項目	耐風圧性	気密性	水密性	枠の見込み寸法	種 別	・ D種	S-2	A-4	W-3	・ E種	S-3			(mm)	・ 断熱ドアセット、断熱サッシの断熱性の等級 ※ 図示による ・	外部に面する建具の日射熱取得性の等級	ガラス ※複層ガラス (16.3.3)	表面色 ・ 標準色 ・ 特注色 (16.3.4)	水切り板、ぜん板 ※ 図示による (16.3.5) (16.2.5)	木下地の内付け建具 ・ 適用する (建具の製造所の仕様) ・ 適用しない (16.3.5) (16.2.5)	・ 簡易気密型ドアセット 気密性、水密性の等級 ・ 標準仕様書 表16.4.1による (16.4.2)	外部に面する建具の耐風圧性 ※ S-4 ・ S-5 ・ S-6 (表16.2.1)	・ 防音ドアセット、防音サッシの遮音性の等級 ※ 図示による ・	・ 断熱ドアセット、断熱サッシの断熱性の等級 ※ 図示による ・	・ 耐震ドアセット、面内変形追従性の等級 ※ 図示による ・	ステンレス鋼板の種類 ※SUS304、SUS430J1LJ1L又はSUS443J1 (16.4.3) (16.6.3)	点検口の隅のくつずりの材料 (16.4.3)	鋼板類の厚さ (W) 以下の場合 ※ 表16.4.2による (16.4.4)	(W) を超える場合 ※ 図示による	(W) 1枚の戸の有効開口幅950mm又は有効高さが2,400mm	ステンレス製くつずりの仕上げ ※H L (16.4.4)	標準型鋼製建具の有効内法寸法 (表16.4.5)による。 (16.4.6)	・ 適用する (建具符号、形式及び寸法は建具表による。)	・ 簡易気密型ドアセット 気密性の等級 ・ A-3 (16.5.2)	・ 防音ドアセット、防音サッシの遮音性の等級 ※ 図示による ・	・ 断熱ドアセット、断熱サッシの断熱性の等級 ※ 図示による ・	・ 耐震ドアセット、面内変形追従性の等級 ※ 図示による ・	鋼板 ・ 鋼板 (16.5.3.1.7) ・ ビニル被膜鋼板 ・ カラー鋼板 ・ ステンレス鋼板 (16.5.3)	組合せ、縦小口包み板、押縁 ※ 鋼板 (16.5.3.1.7) (16.5.3)	鋼板類の厚さ (W) 以下の場合 ※ 表16.5.1による (16.5.4)	(W) を超える場合 ※ 図示による	(W) 1枚の戸の有効開口幅950mm又は有効高さが2,400mm	ステンレス製くつずりの仕上げ ※H L (16.5.4) (16.4.4)	標準型鋼製軽量建具の有効内法寸法 (表16.4.5)による。 (16.5.6)	・ 適用する (建具符号、形式及び寸法は建具表による。)	耐風圧性等級、気密性等級、水密性等級 ・ 建具表による (16.6.2)	外部に面する建具の耐風圧性 ※ S-4 ・ S-5 ・ S-6 (表16.2.1) (16.6.2)	・ 防音ドアセット、防音サッシの遮音性の等級 ※ 図示による ・	・ 断熱ドアセット、断熱サッシの断熱性の等級 ※ 図示による ・	・ 耐震ドアセット、面内変形追従性の等級 ※ 図示による ・	ステンレス鋼板 ※ SUS304、SUS430J1LJ1L又はSUS443J1 (16.6.3)	表面の仕上げ ※ H L (16.6.4)	ステンレス製くつずりの仕上げ ※ H L (16.6.4) (16.4.4)	ステンレス鋼板の曲げ加工 ※ 普通曲げ ・ 角出し曲げ (16.6.5)	建具材の含水率 ※ A種 ・ B種 (16.7.2) (表16.7.1)	接着材のホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆ (16.7.2)	枠、くつずりの材料 ・ 建具表による (16.7.2)	・ フラッシュ戸 表面材の合板の種類 (16.7.2) (表16.7.2)	・ 普通合板 ・ 天然木化粧合板 ・ 特殊加工化粧合板 (接着の程度、板面の品質は16.7.2)による (16.7.2)	・ MDF (表裏面の状態、曲げ強度、接着材、難燃性による区分は図示による。)	表面材の材料のホルムアルデヒド放散量 ※標準仕様書16.7.2(i) (a)による (16.7.3)	表面板の厚さ ※標準仕様書表16.7.6による (16.7.3)	引戸の定規縁 ・ 召し合わせかまをいんろう付きとする (16.7.4)	・ かまち戸 かまち樹種、鍍板樹種、見込み寸法は図示による (16.7.2) (16.7.3) (表16.7.7)	・ ふすま 種別、工法、上張り、縁仕上、見込み寸法は図示による (表16.7.7) (16.7.4) (表16.7.10)	・ 戸ぶすま 表面材の種類、品質等、見込み寸法は図示による (16.7.2) (16.7.3) (表16.7.7) (16.7.4)	・ 紙張り障子 見込み寸法は図示による (16.7.3) (表16.7.7)	建具表による (16.8.1~4) (表16.8.1~4)	見本提出のうえ監督員の承認を受ける。	鍵箱 ・ 設ける (個用) ・ 設けない ○ 鍵札	マスターキー ・ 製作する (組) ○ 製作しない ・ 既存マスター合わせ	煙感知器連動とする防火戸の解錠機構は別途とする。	※ 扉にラッチ受座用切込開口補強 ・ 枠に解錠機構用切込開口補強																																																																															
性能項目	耐風圧性	気密性	水密性	枠の見込み寸法																																																																																																																																																																																														
種 別	・ A種	S-4	W-4																																																																																																																																																																																															
・ B種	S-5	A-4	W-5																																																																																																																																																																																															
・ C種	S-6																																																																																																																																																																																																	
性能項目	耐風圧性	気密性	水密性	枠の見込み寸法																																																																																																																																																																																														
種 別	・ D種	S-2	A-4	W-3																																																																																																																																																																																														
・ E種	S-3			(mm)																																																																																																																																																																																														
⑬	1 ラス系下地 (15.2.4)	※図示による。 (15.2.4)	2	せっこうボード、 その他のボード下地 (15.2.5)	材料 せっこうボード、せっこうラスボード及び木質系セメント板の種類及び厚さ (15.2.5)	3	こまい下地 (15.2.6)	材料 せっこうボード、せっこうラスボード及び木質系セメント板の種類及び厚さ (15.2.6)	4	木ずり下地 (15.2.7)	材料 木質系セメント板の種類 () 厚さ (mm) (15.2.7)	⑤	モルタル塗り (15.3.2~5)	材料 建築基準法に基づく耐力壁の指定 ・ なし ・ あり (15.3.2)	⑥	セルフレベリング 材塗り (15.5.2)	モルタル ・ 現場調合材料 ・ 既調合材料 (15.5.2)	吸水調整材の品質 ※表15.3.2による (15.5.2)	既製目地材 ・ 使用しない ・ 使用する (15.5.2)	形状、寸法 () (15.5.2)	⑦	仕上塗材仕上げ (15.6.2)	材料 内装仕上げに用いる塗材のホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆ (15.6.2) (表15.6.1)	○ 薄付け仕上塗材 (15.6.2) (表15.6.1)	<table><tr><th>種 別</th><th>厚さ (mm)</th><th>施工箇所</th></tr><tr><td>・ セメント系</td><td>※ 10</td><td></td></tr><tr><td>・ セっこう系</td><td>※ 10</td><td></td></tr></table>	種 別	厚さ (mm)	施工箇所	・ セメント系	※ 10		・ セっこう系	※ 10		⑧	マステック塗材塗り (15.7.2)	種別 ・ A種 ・ B種 (15.7.2)	9	ロックウール吹付け (15.12.2)	※図示による (15.10.1) (15.10.2) (15.10.3) (15.10.4) (表15.10.1~表15.10.5)	※図示による (15.11.2~5) (15.11.7~8) (表15.11.9)	10	ロックウールのホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆ (15.12.2)	接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆ (15.12.2)	仕上り吹付け厚さ (mm) ・ 図示による ・ 25mm	⑭	1 防火戸の指定 (16.1.3)	※ 図示による (16.1.3)	2 見本の製作等 (16.1.4)	建具見本の製作 ・ 製作する (図示) ※ 製作しない (16.1.4)	特殊な建具の仮組 ・ 行う (図示) ※ 行わない	建具の製作所 ※ 監督員の承諾する製作所	⑮	アルミニウム 製建具 (16.2.2~16.2.5)	性能及び構造 (16.2.2~16.2.5) (表16.2.1) (表16.2.2)	外部に面するアルミニウム製建具の性能等級	○コンクリート系下地及び鉄骨下地	<table><tr><th>性能項目</th><th>耐風圧性</th><th>気密性</th><th>水密性</th><th>枠の見込み寸法</th></tr><tr><td>種 別</td><td>○ A種</td><td>※ S-4</td><td>※ A-3</td><td>※ W-4</td></tr><tr><td>・ B種</td><td>※ S-5</td><td></td><td></td><td>70mm (注)</td></tr><tr><td>・ C種</td><td>※ S-6</td><td>※ A-4</td><td>※ W-5</td><td>(mm)</td></tr></table> (注) 引違い・片引き・上げ下げ窓で、複層ガラスを使用する場合は、100mmとする。	性能項目	耐風圧性	気密性	水密性	枠の見込み寸法	種 別	○ A種	※ S-4	※ A-3	※ W-4	・ B種	※ S-5			70mm (注)	・ C種	※ S-6	※ A-4	※ W-5	(mm)	11	自動ドア開閉装置 (16.9.2)	戸の開閉方式 ・ 図示による (16.9.2)	自動ドア開閉装置の性能 ※引き戸用自動装置の場合、標準仕様書表16.9.1による ・ 駆動装置の性能 ・ 適用する ・ 適用しない	防鎖の適用 ・ 適用する ・ 適用しない	車椅子使用者用便所出入口の引き戸用自動装置の性能 ※標準仕様書表16.9.1による ・ 防鎖の適用 ・ 適用する ・ 適用しない	検出装置の性能 ※引き戸用検出装置の性能は標準仕様書表16.9.3による ・ 防鎖の適用 ・ 適用する ・ 適用しない	引き戸用検出装置の種類 標準仕様書表16.9.4による	種類・光線(反射)センサー ・ 熱線センサー ・ 音波センサー ・ 光電センサー ・ 電波センサー ・ タッチスイッチ (・無線式タッチスイッチ ・ 光電式タッチスイッチ) ・ 押しボタンスイッチ ・ 車椅子使用者便所スイッチ (・大形 (開・閉) 押しボタンスイッチ ・ 非接触スイッチ)	凍結防止措置 ・ 適用する ・ 適用しない (16.9.2)	性能 ※ 標準仕様書 表16.10.1による ・ 図示による (16.10.3)	12	自重式上吊り 引戸装置 (16.10.3)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター (16.11.2)	
種 別	厚さ (mm)	施工箇所																																																																																																																																																																																																
・ セメント系	※ 10																																																																																																																																																																																																	
・ セっこう系	※ 10																																																																																																																																																																																																	
性能項目	耐風圧性	気密性	水密性	枠の見込み寸法																																																																																																																																																																																														
種 別	○ A種	※ S-4	※ A-3	※ W-4																																																																																																																																																																																														
・ B種	※ S-5			70mm (注)																																																																																																																																																																																														
・ C種	※ S-6	※ A-4	※ W-5	(mm)																																																																																																																																																																																														

[illegible]

福山市工事区分表							分類	項目	区分						分類	項目	区分																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
1. 区分は設計図書に明記なき限り、※印のついたものを適用する。 2. 複数の区分が適用となる場合は、関連工事別に施工する。									建	電	給	空	ガ	昇			建	電	給	空	ガ	昇	建	電	給	空	ガ	昇																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
分類	項目						6 建具等	1. 防火（煙）シャッター及び自動閉鎖装置の製作及び設置 2. 同上用連動制御器と感知器の製作・設置及び電気配管配線工事 3. 防火戸の扉、枠の製作・設置（自動閉鎖装置用切り込み補強共） 4. 同上用自動閉鎖装置の製作・設置 5. 同上用連動制御器及び感知器の製作・設置 6. 同上用自動閉鎖装置、連動制御器及び感知器の電気配管配線工事 7. 可動式防煙壁及び自動降下装置緩衝装置の製作・設置 8. 同上用連動制御器、感知器の製作・設置及び電気配管配線工事 9. 電動式排煙窓の開放装置の製作・設置及び二次側電気配管配線工事 10. 同上一次側電気配管配線工事 11. 電動シャッター、自動ドアなどの制御盤及び二次側電気配管配線工事 12. 同上一次側電気配管配線工事	※						9 ビット・マンホール・水槽等	1. 湧水槽、蓄熱槽等のRC造躯体、断熱層、内外の防水及び仕上げ 2. 同上マンホール蓋及びタラップの設置 3. 屋内の排水溝、配管ビット、配線ビットの内外の防水及び仕上げ 4. 同上付属蓋類及びタラップの設置 5. 同上内設備配管類の架台の製作及び設置 6. 屋内マンホールのRC造躯体、鉄蓋蓋及び化粧蓋の設置 7. 屋外マンホールのRC造躯体、鉄蓋蓋の設置 8. 屋外マンホールの化粧蓋の設置 9. 同上化粧蓋の仕上 10. 浄化槽設備のRC造躯体、内外防水及び仕上げ 11. 同上用マンホール蓋及びタラップの設置 12. FRP製浄化槽等の設置（RC造躯体は除く） 13. 排水槽、浄化槽等の内外装置の設置 14. 湧水槽、蓄熱槽等用液面電極取付け座の設置 15. 同上用各種満減水警報、液面電極棒取付け 16. 同上電気配管配線工事	※																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															



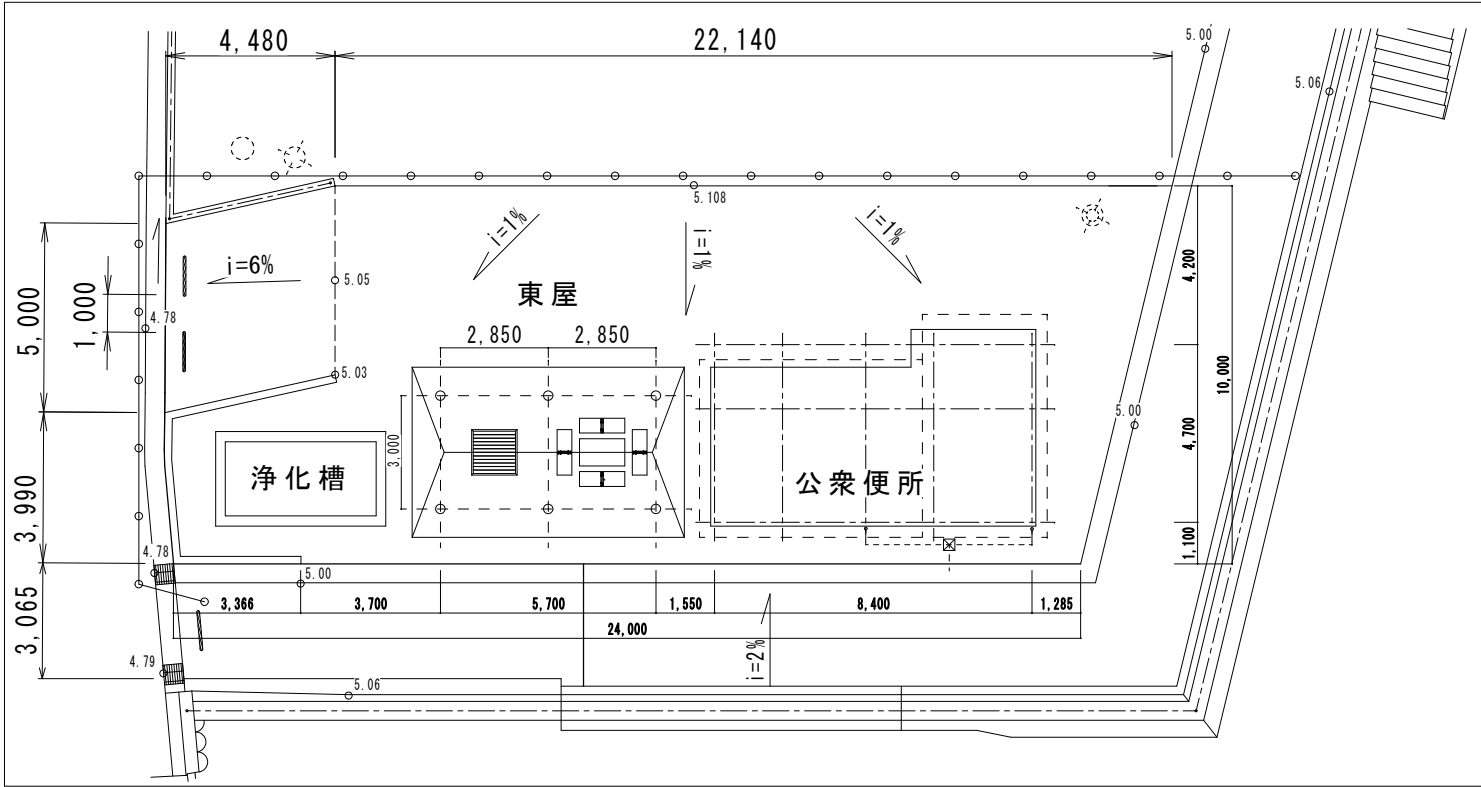
工事場所：福山市鞆町後地内

付近見取図 NO SCALE

※仮設工事凡例

記号	内容
○—○	ガードフェンス

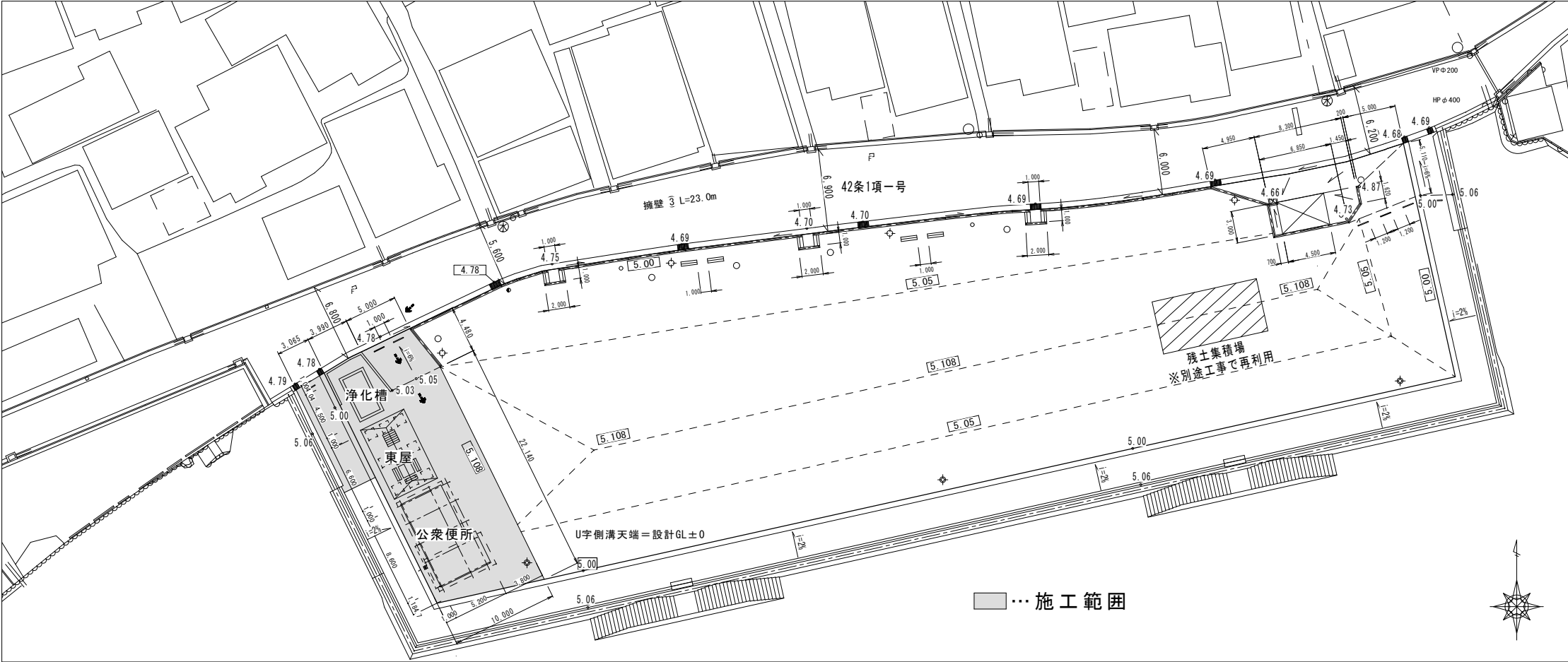
※仮設計画は事前に監督員の承諾を得ること。



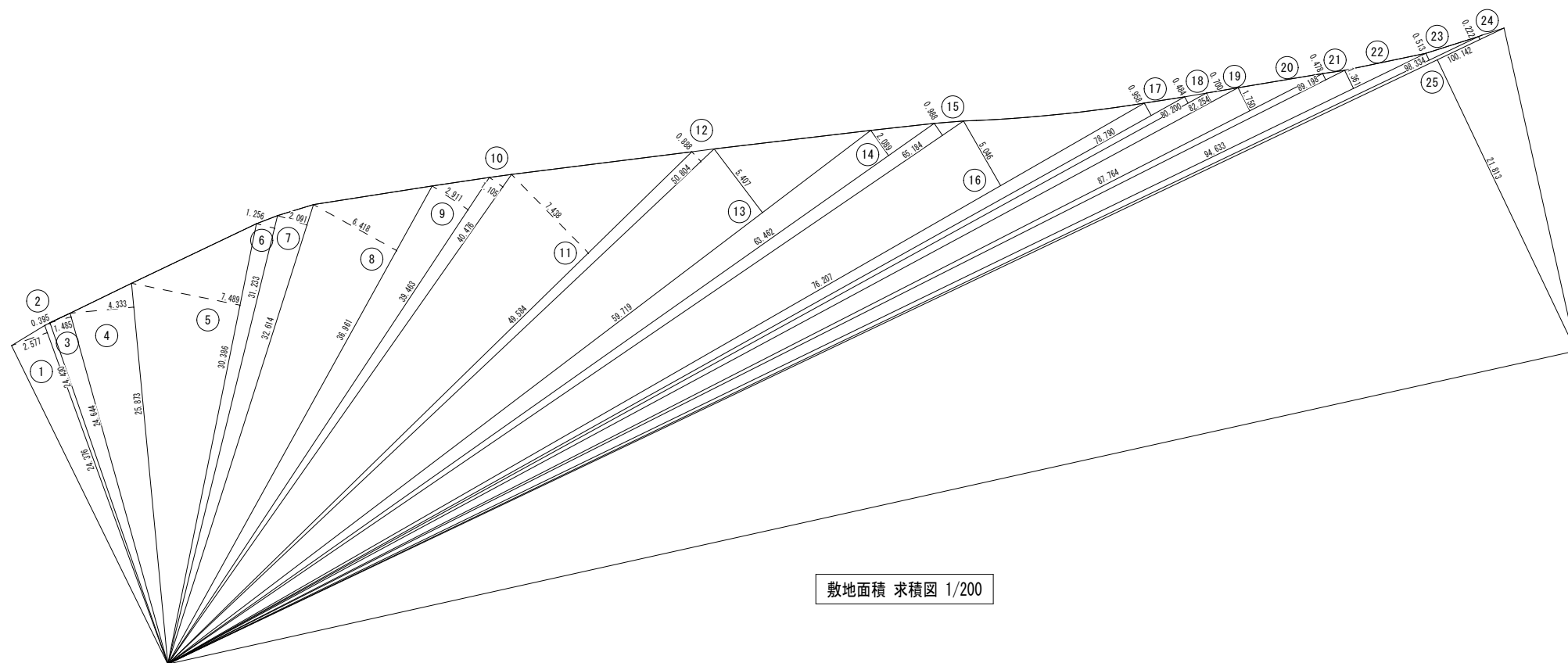
抜粋配置図 1/100

工事内容

- ・公衆便所、東屋
- ・浄化槽底板、掘削、埋め戻し、天板
(※浄化槽本体：給排水衛生設備工事)
- ・縁台、テーブル・ベンチ
- ・外構工事



配置図 1/250

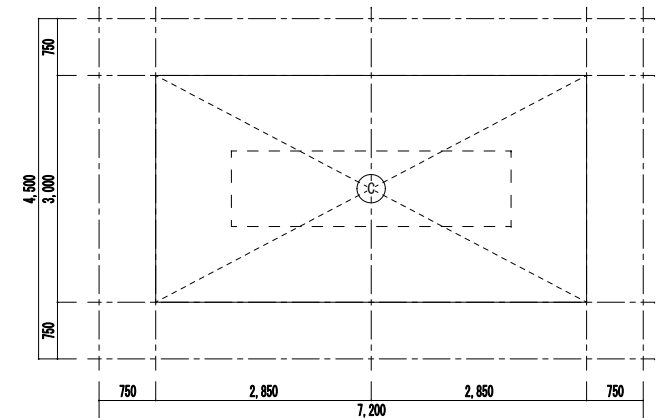


敷地面積 求積図 1/200

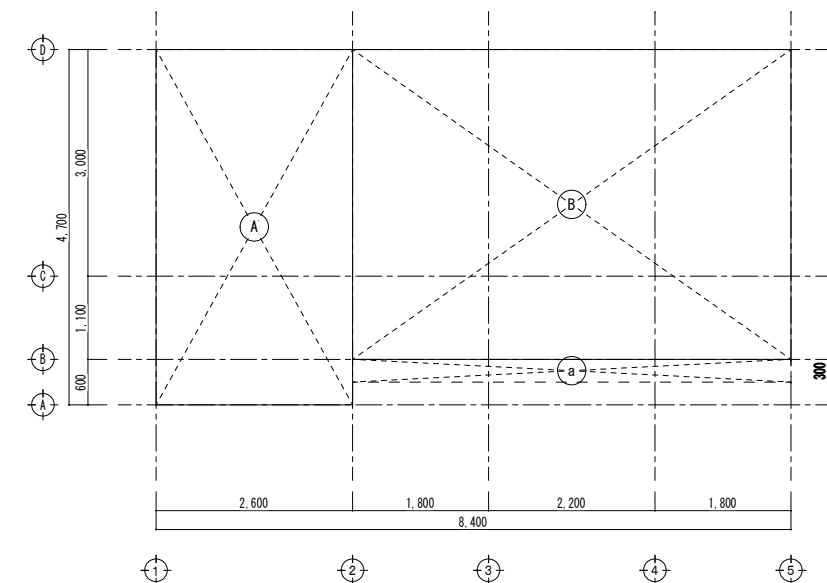
(1)	24.376	×	2.577	÷	2	=	31.408476
(2)	24.430	×	0.395	÷	2	=	4.824925
(3)	24.644	×	1.485	÷	2	=	18.29817
(4)	25.873	×	4.333	÷	2	=	56.0538545
(5)	30.386	×	7.489	÷	2	=	113.780377
(6)	31.233	×	1.256	÷	2	=	19.614324
(7)	32.614	×	2.091	÷	2	=	34.097937
(8)	36.961	×	6.418	÷	2	=	118.607849
(9)	39.463	×	2.911	÷	2	=	57.4383965
(10)	40.476	×	1.105	÷	2	=	22.36299
(11)	49.584	×	7.438	÷	2	=	184.402896
(12)	50.804	×	0.888	÷	2	=	22.556976
(13)	59.719	×	5.407	÷	2	=	161.4503165
(14)	63.462	×	2.089	÷	2	=	66.286059
(15)	65.184	×	0.988	÷	2	=	32.200896
(16)	76.207	×	5.046	÷	2	=	192.270261
(17)	78.790	×	0.958	÷	2	=	37.74041
(18)	80.200	×	0.484	÷	2	=	19.4084
(19)	82.254	×	0.700	÷	2	=	28.7889
(20)	87.764	×	1.750	÷	2	=	76.7935
(21)	89.198	×	0.478	÷	2	=	21.318322
(22)	94.633	×	1.361	÷	2	=	64.3977565
(23)	98.334	×	0.513	÷	2	=	25.222671
(24)	100.142	×	0.222	÷	2	=	11.115762
(25)	100.142	×	21.813	÷	2	=	1092.198723
						合計	2512.639148

東屋床面積・建築面積 求積図

⑤	5.700	×	3.000	=	17.1
					17.1 (延べ面積)
⑥	3.700	×	1.000	=	3.7
					3.7 (建築面積)

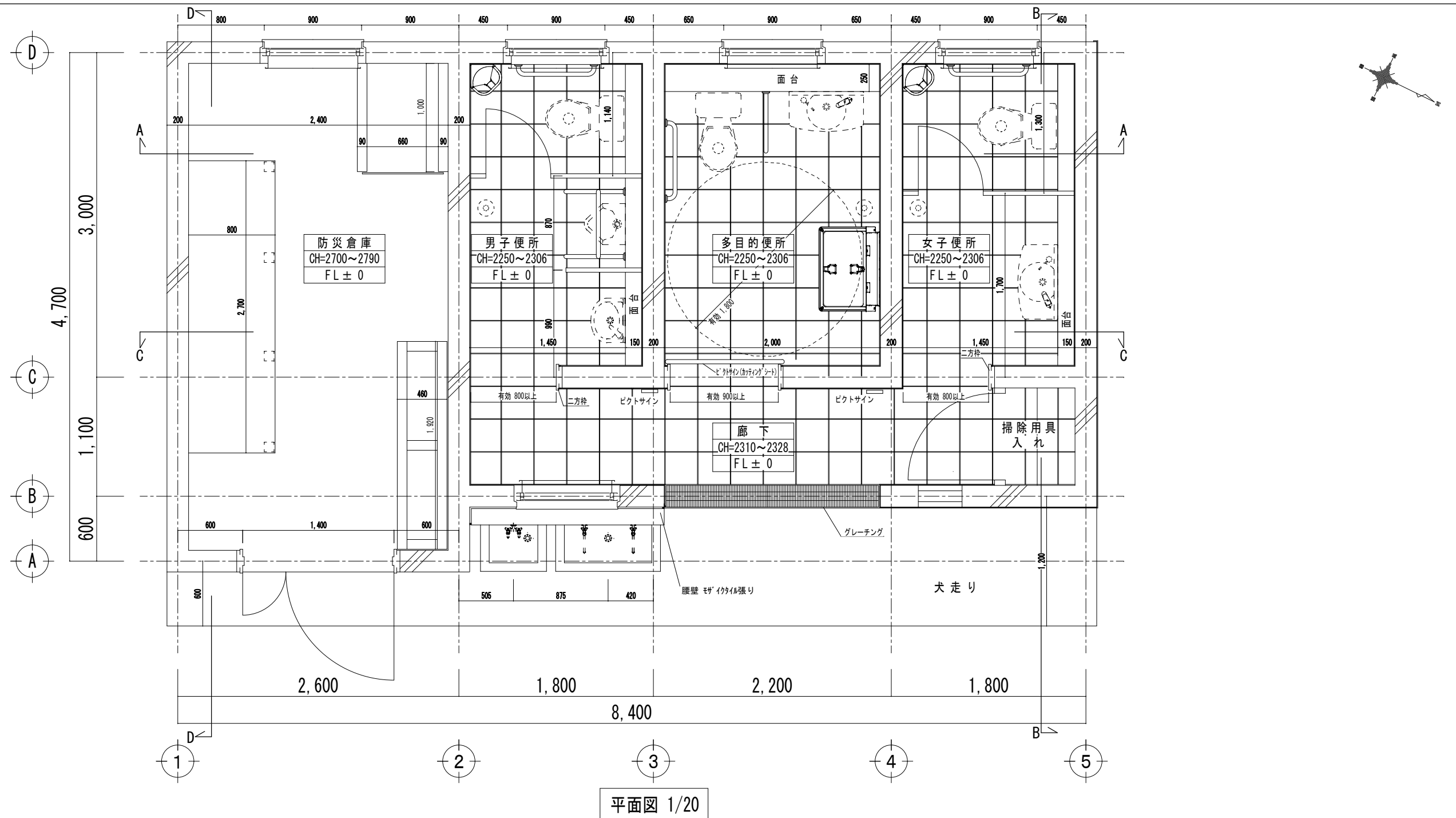


東屋 求積図 1/50



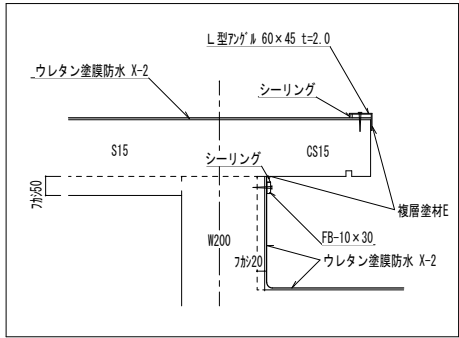
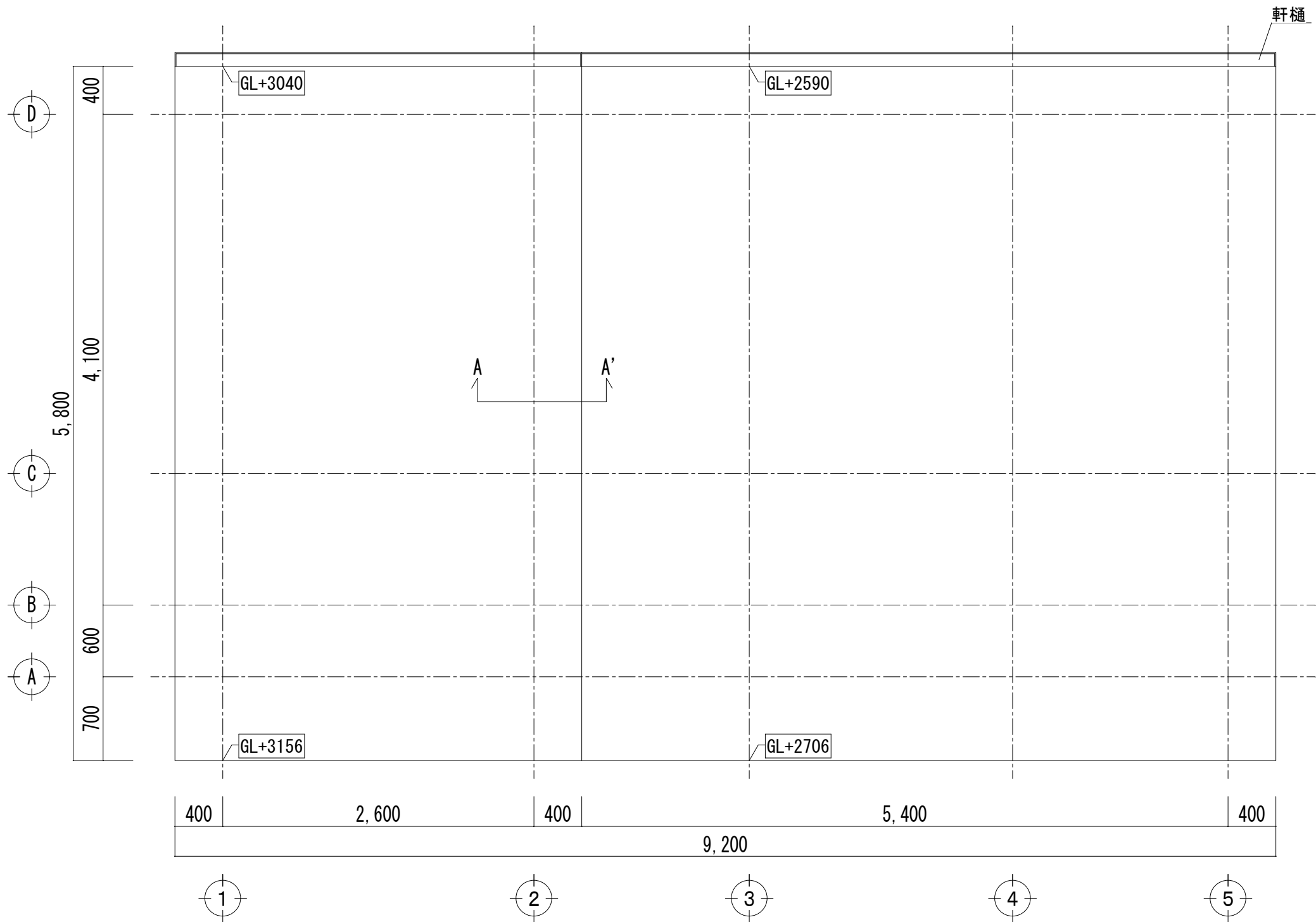
公衆便所 求積図 1/50

(A)	2.600	×	4.700		=	12.22
(B)	5.800	×	4.100		=	23.78
						36.00 (延べ面積)
(a)	5.800	×	0.300		=	1.74
12.22 + 23.78 + 1.74						= 37.74 (建築面積)



平面図 1/20

外部仕上表		内部仕上表						
屋根・庇	コンクリート補修の上 ウレタンゴム系塗膜防水 (X-2)	室 名	床	腰 壁	壁	天 井	備 考	備考（別途工事）
		多目的便所	モルタル下地 磁器質300角タイル	コンクリート補修の上 陶器質150角タイル	コンクリート補修の上 EP塗装	コンクリート補修の上 結露防止塗材E吹付 （茶谷産業 セキレート・コンパウンド 同等品）	ベビーシート（TOTO YKA25N同等品） L型手摺（カ工業 NS-TL7070同等品） 可動式手摺（カ工業 NS-CM4同等品）	洋式大便器 手洗器
軒裏	コンクリート補修の上 外装薄塗材E吹付 （エスケー化研 シボカケンD0同等品）	男子便所	同上	同上	同上	同上	ベビーチェア（TOTO YKA16S同等品） L型手摺（カ工業 NS-TL7070同等品） 小便器用手摺（カ工業 NS-U1同等品）	洋式大便器 小便器 手洗器
外壁	コンクリート補修の上 腰壁：陶器質二丁掛タイル 壁：複層塗材E吹付 （エスケー化研 レナラック同等品）	女子便所	同上	同上	同上	同上	ベビーシート（TOTO YKA25N同等品） L型手摺（カ工業 NS-TL7070同等品）	洋式大便器 手洗器
		廊下	同上	同上	同上	同上	ピクトサイン（タチエス F1-15の150同等品）	－
備考	軒樋：塩ビ前高200形 （積水化学 超芯Vシリーズ同等品） 縦樋：カラーVPφ75 雨水拵、グレーチング、U字側溝 埋設雨水排水配管	掃除用具入れ	同上	コンクリート打放し	コンクリート打放し	同上	木製棚（幅900×奥行350）	－
		防災倉庫	コンクリート鍍押し	同上	同上	同上	木製棚、吊り棚（幅2,700×奥行800×高さ800、幅2,700×奥行800×下端FL+1800） 木製棚（幅840×奥行1,000×高さ1,090） 木製吊り棚（幅1,920×奥行460×下端FL+1500）	－



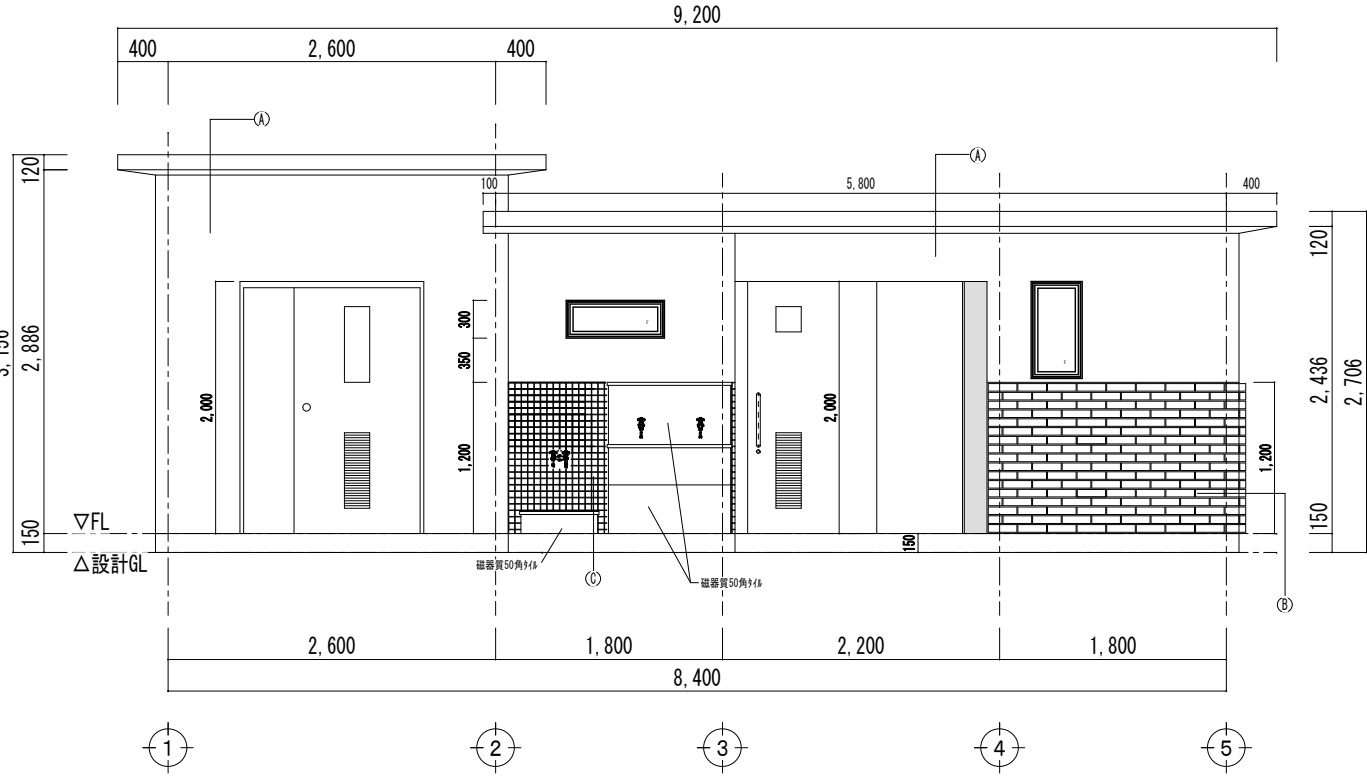
屋上平面図 1/20

※屋根勾配は 2% 確保すること

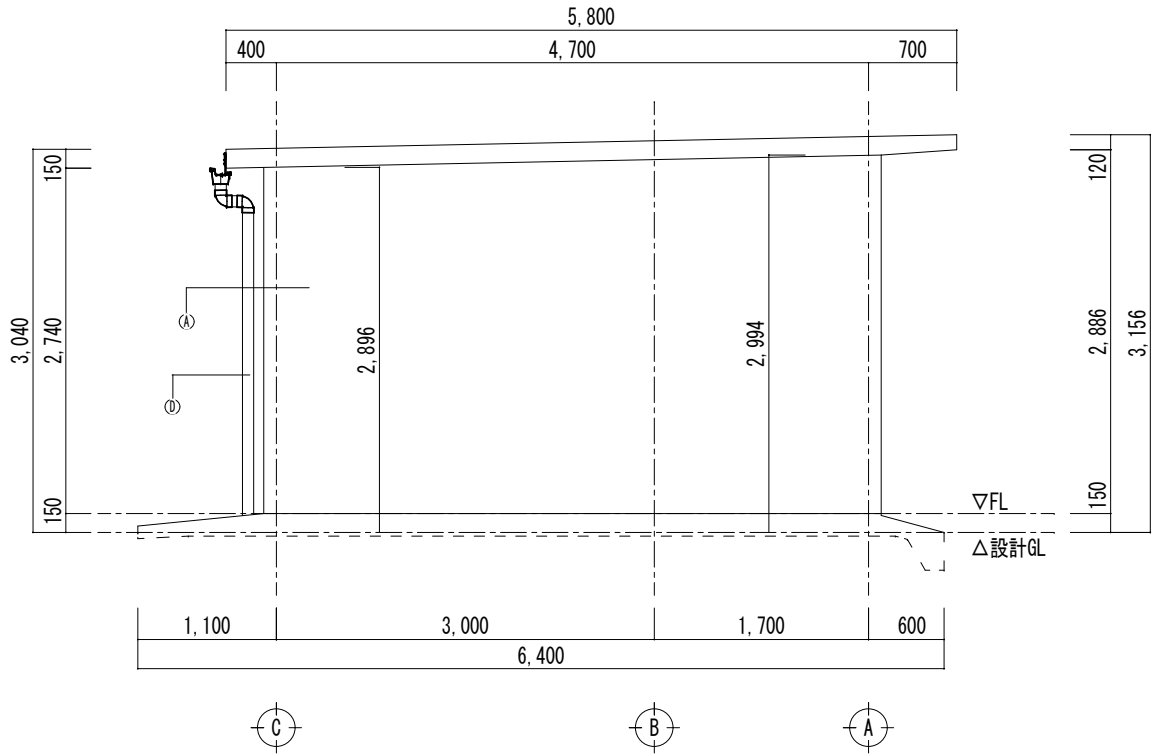
A-A' 断面図 1/10

					福山市建設局建築部営繕課		工事名称 (仮称) 鞆町平地区ふれあい広場便所新築工事		図面No A-10
			設計		2025年 8月		図面名称 屋上平面図		縮尺 1/20

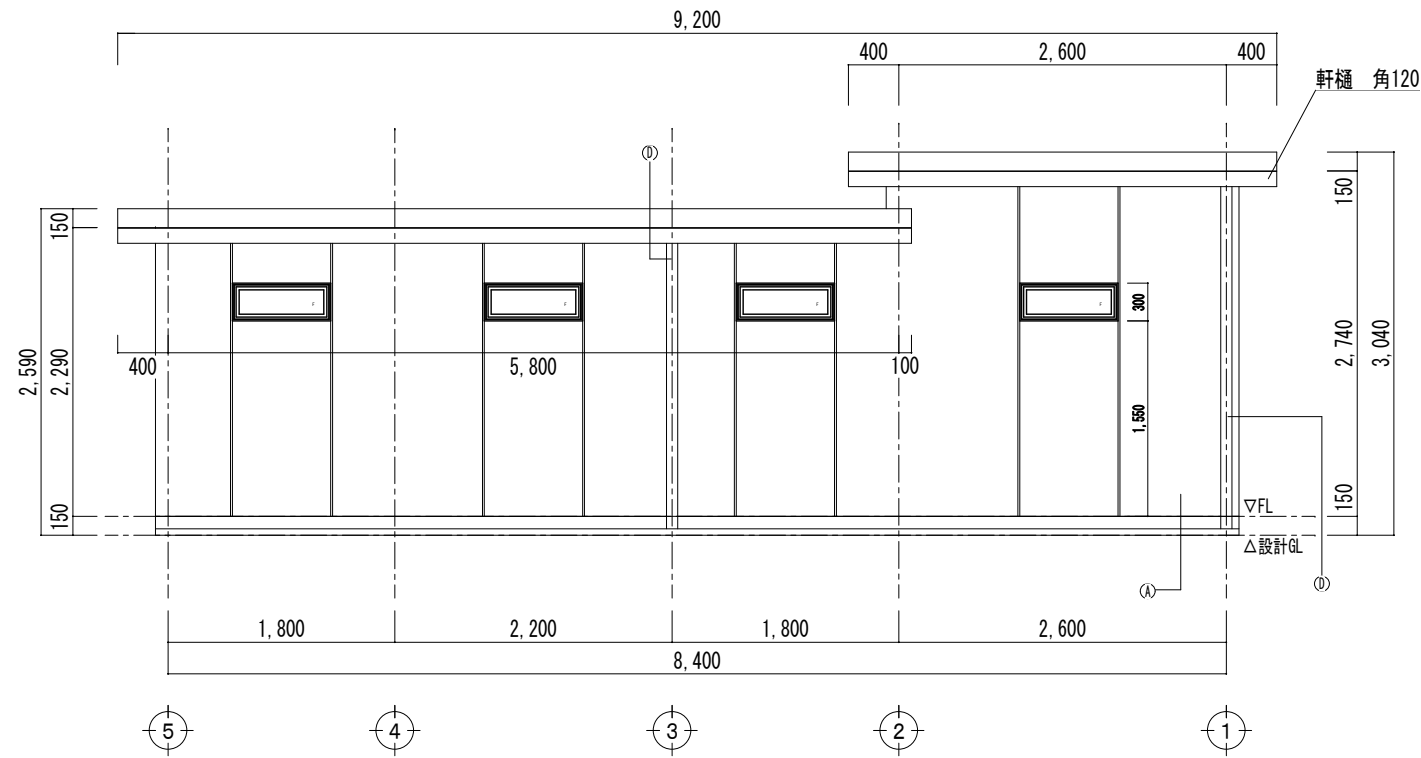
凡例	
(A)	外装A 複層塗材E吹付
(B)	外装B 陶磁器二丁掛タイル
(C)	外装C モザイクタイル張り
(D)	壁樋 カラーVP 75φ



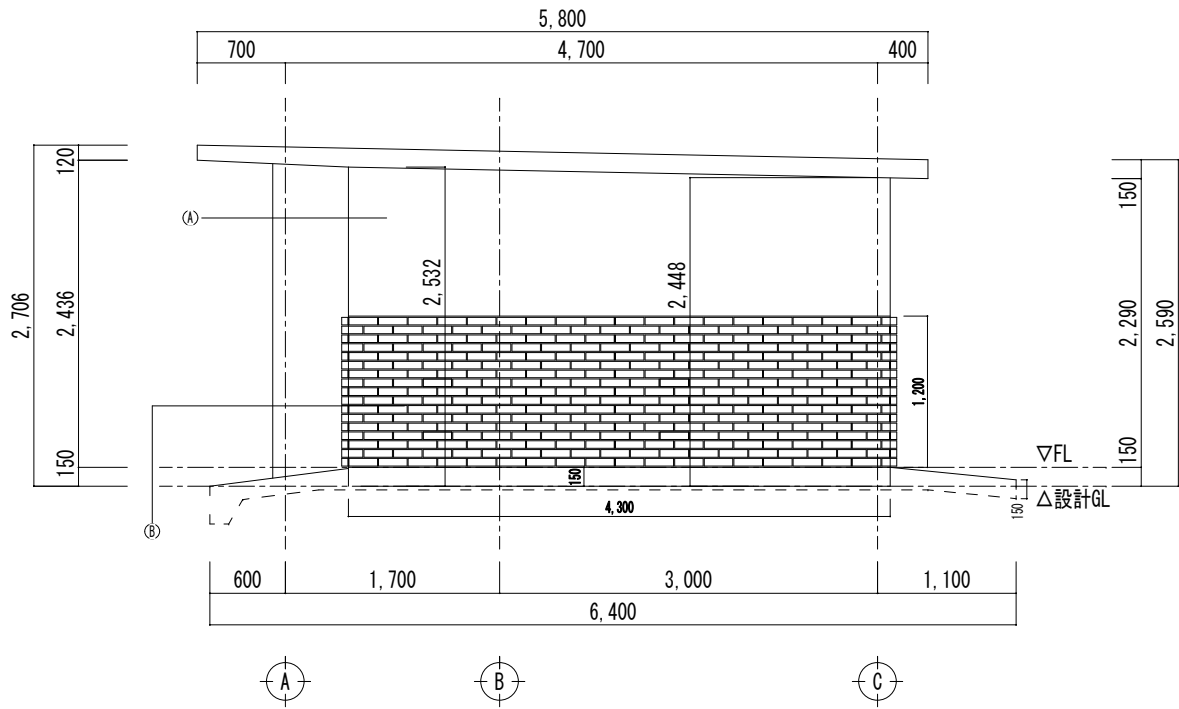
東立面図 1/30



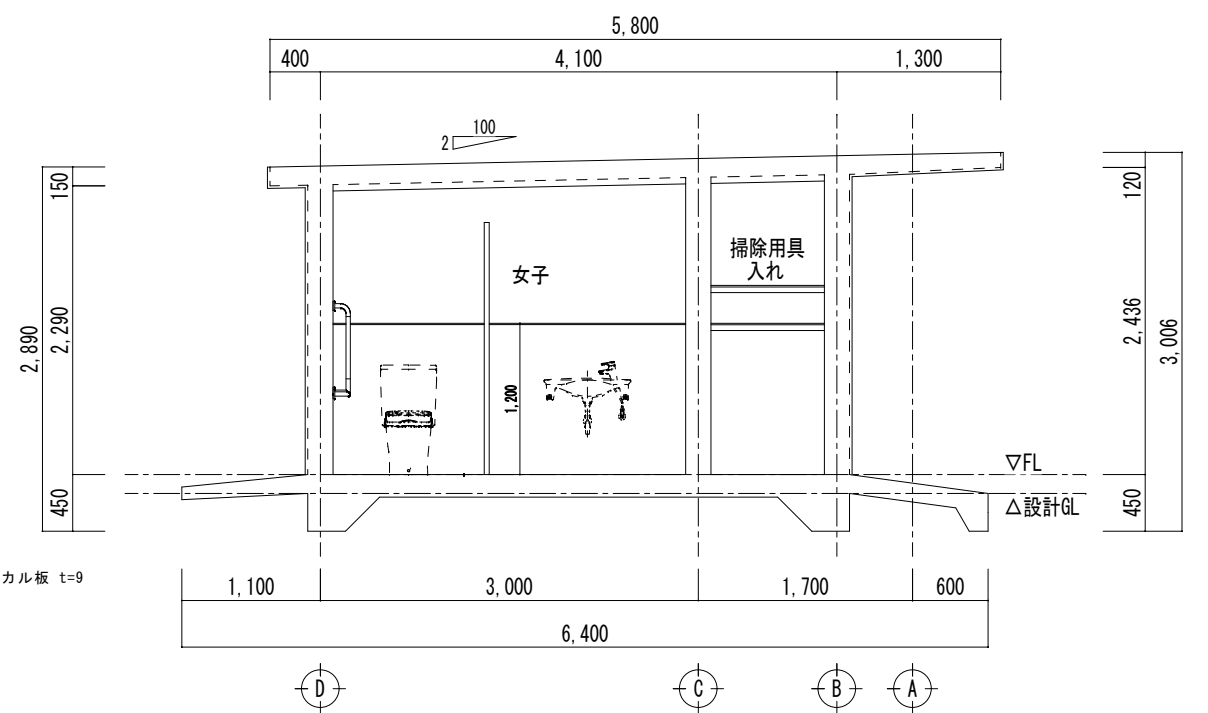
南立面図 1/30



西立面図 1/30

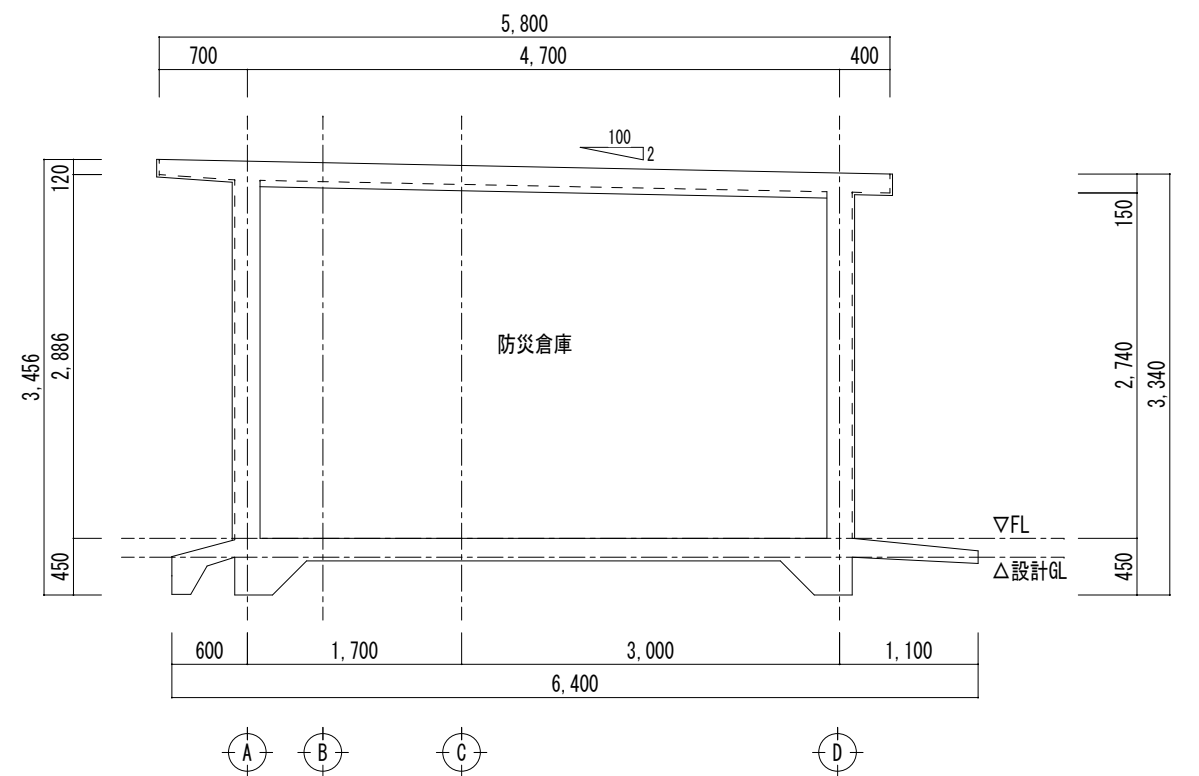


北立面図 1/30



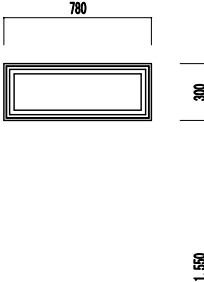
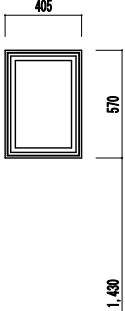
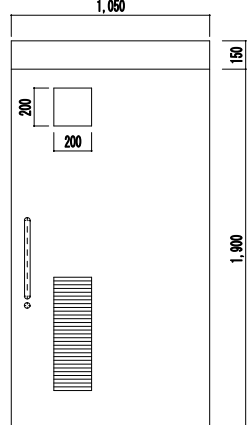
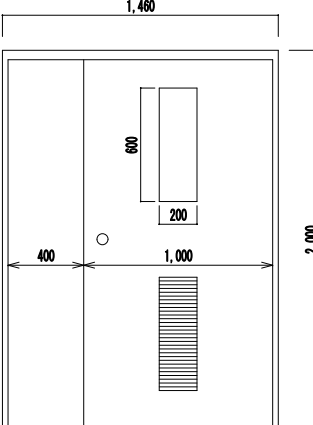
※手摺設置高さは、監督員に事前協議を行うこと。
 ※外部に接する箇所は、外部に207㎝
 ※R階スラブは下部に507㎝

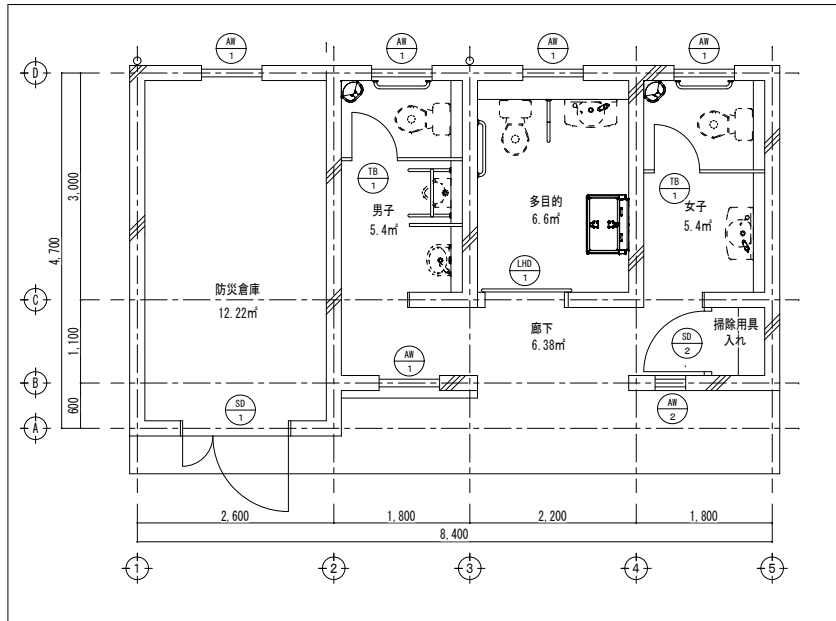
B断面図 1/30



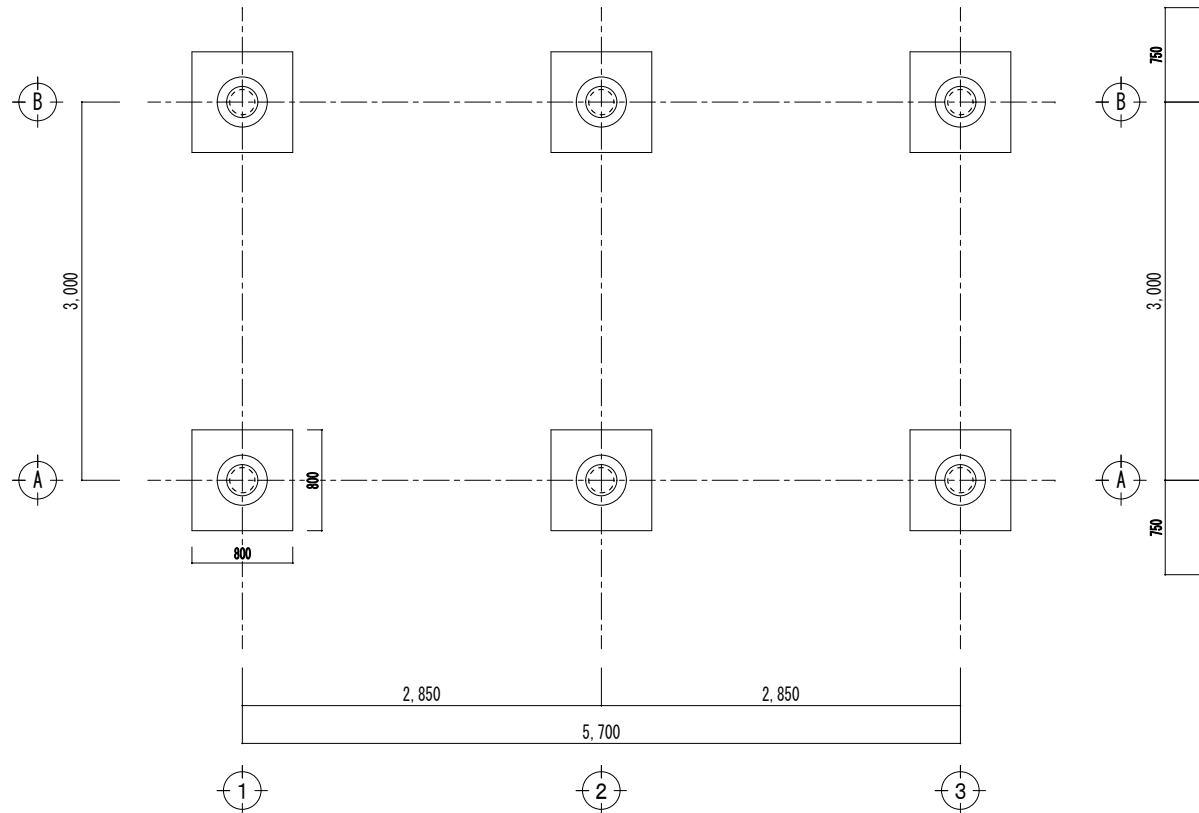
D断面图 1/30

建具表

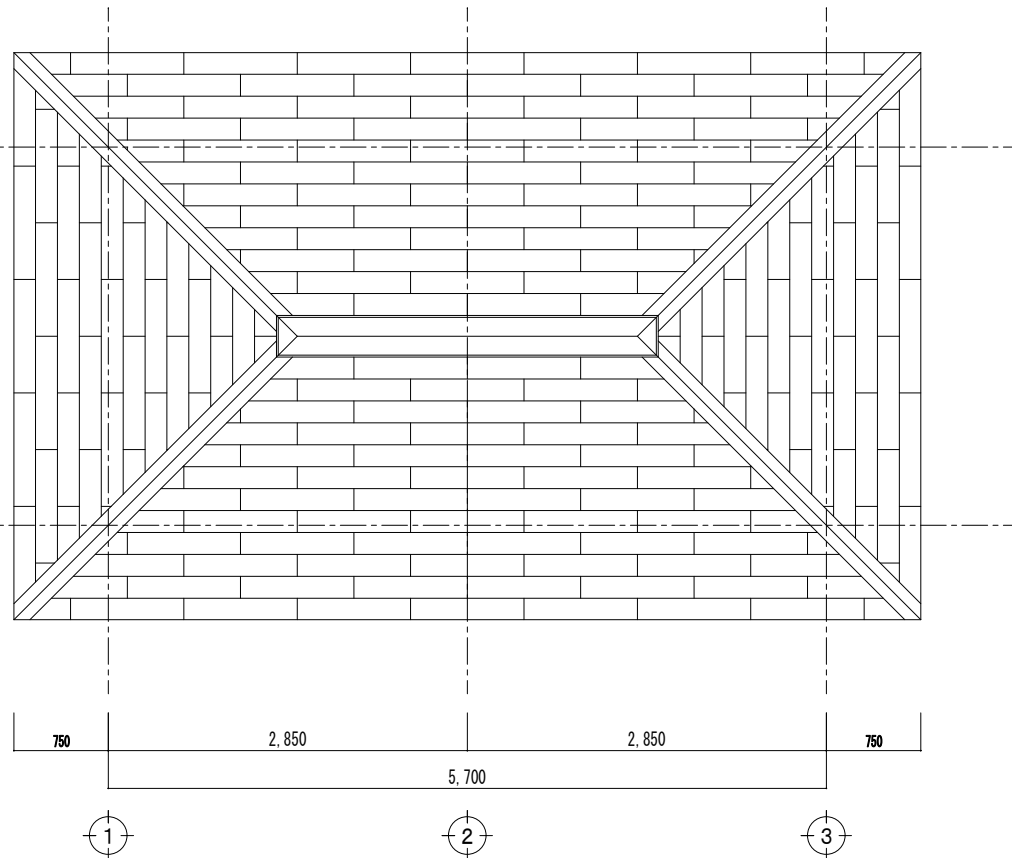
記号	AW 1 FIX窓	AW 2 FIX窓	LHD 1 軽量鋼製上吊り片引き戸	SD 1 鋼製両開き戸
姿図				
数量	5	1	1	1
材質・見込	アルミ製 70	アルミ製 70	軽量鋼製ハンガードア 枠：SOP 枠見込み 230	鋼製ドア 枠：SOP 枠見込み 230
硝子	型板ガラス t=4	型板板ガラス t=4	型板ガラス t=4	型板ガラス t=4
附属金物	標準金物 一式	標準金物 一式	吊り金物 一式、引き棒 自動閉鎖機構（エンドストップ）、表示錠	ステンレス製丁番、ドアクローザー、レバーハンドル錠 フランス落とし、標準金物 一式
備考				



記号	TB 1 トイレブース	SD 2 鋼製片開き戸
姿図		
数量	1	1
材質・見込	高圧メラミン樹脂化粧板 芯材:ペーパーコア 40	鋼製ドア 枠:SOP 枠見込み100
硝子		
附属金物	スライドラッチ (表示付) 帽子戸当り 標準金物 一式	標準金物 一式
備考	パネル上下小口及びコーナーはステンレスエッジ付	



平面図 1/30

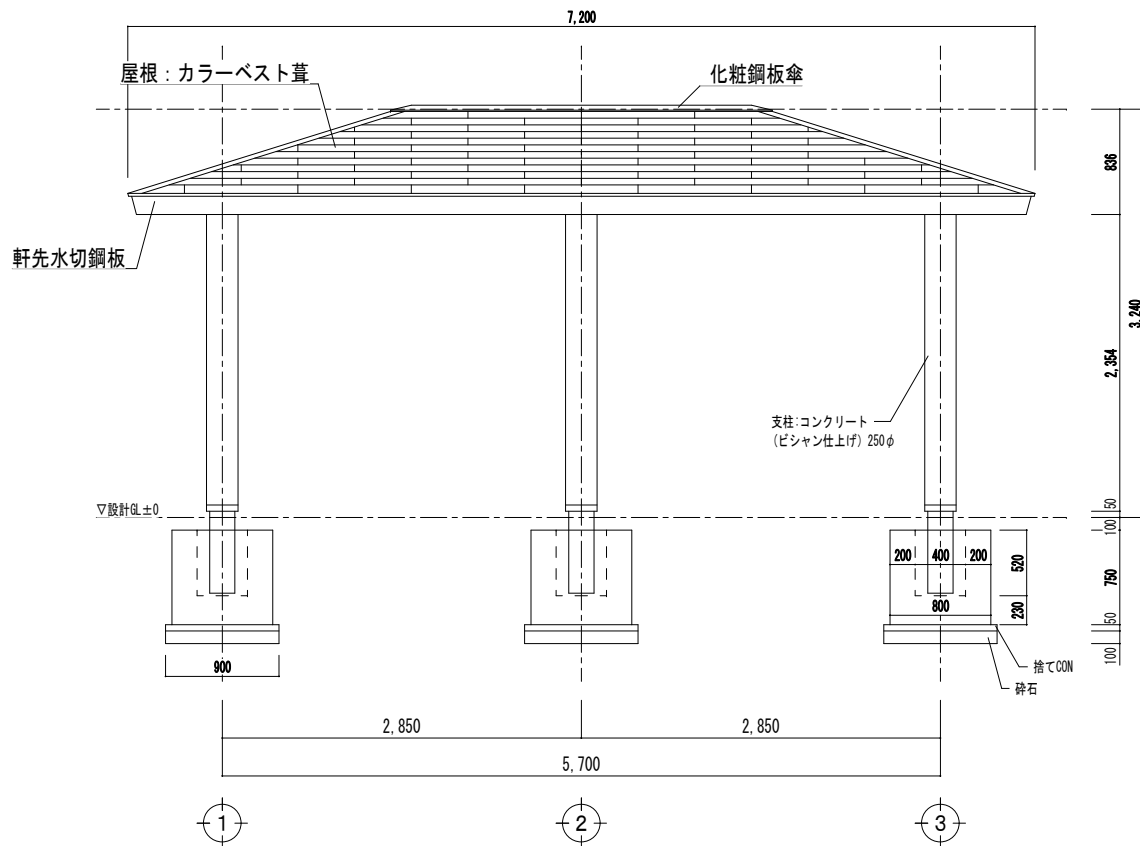


小屋伏図 1/30

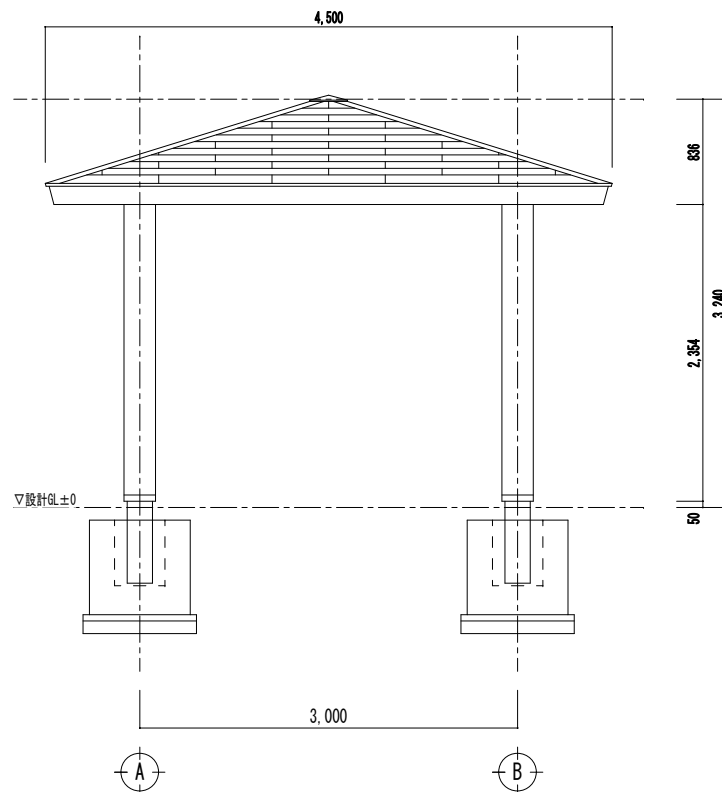
仕様

屋根：カラーベスト葺
下地：アスファルト・フィング 22kg
野地板：杉一等材料 相決まり t=24mm
撥水性 T-WP ステイン塗装仕上げ

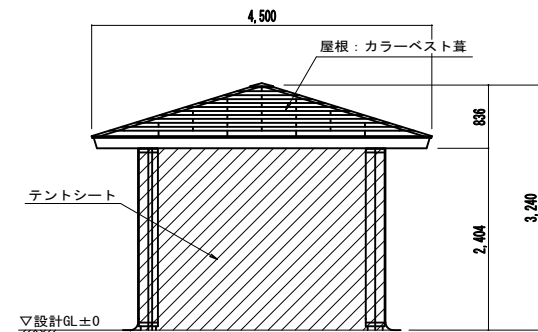
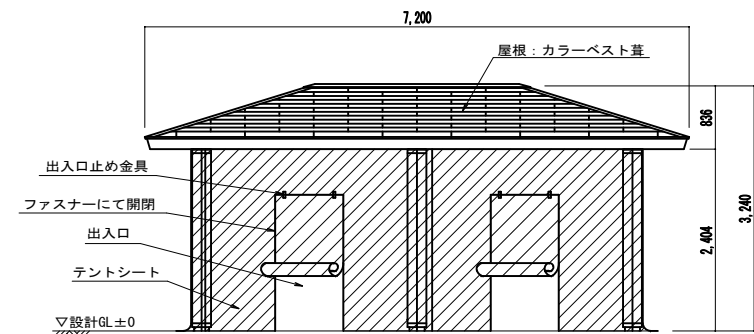
特記事項
塗装 下地：ジンクロメートメッキ
下塗：特殊エポキシ樹脂系プライマー塗装
合成樹脂高温焼付塗装
仕上：〔合成樹脂常温乾燥塗装〕
ボルト・ナットは、全てステンレスとする。
製品は、ISO9001・ISO14001規格認証取得企業で製造された製品とする。
製品は、（一社）日本公園施設業協会・団体賠償責任保険に加入した製品とする。



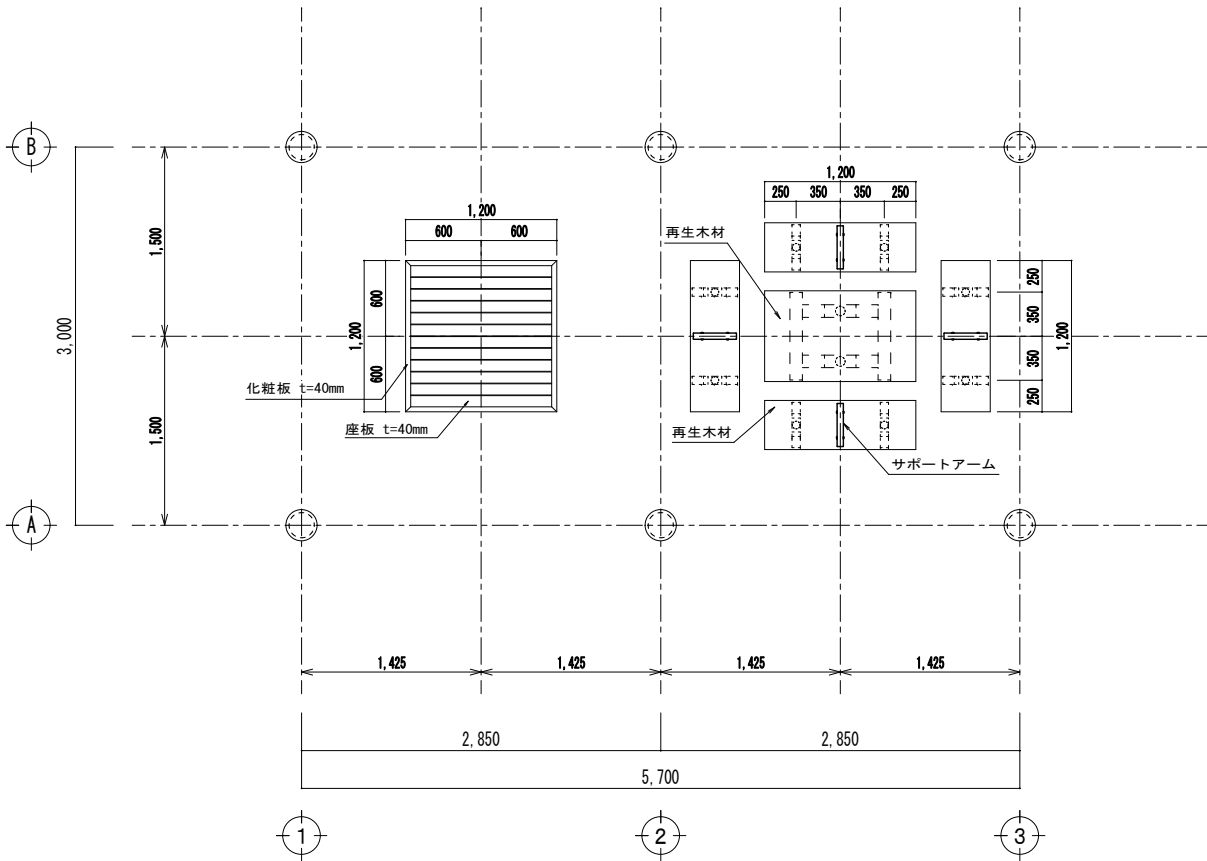
平面図 1/30



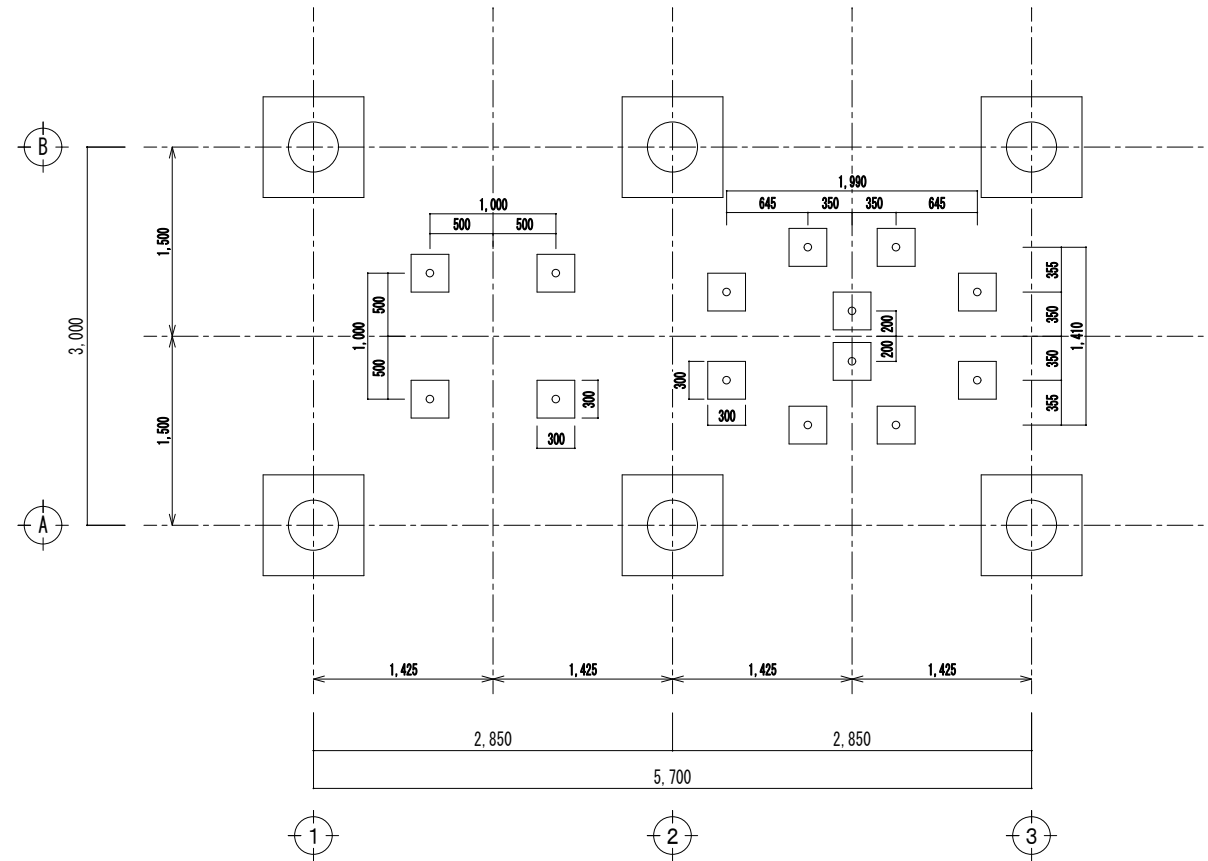
平面図 1/30



テント設営図 1/50



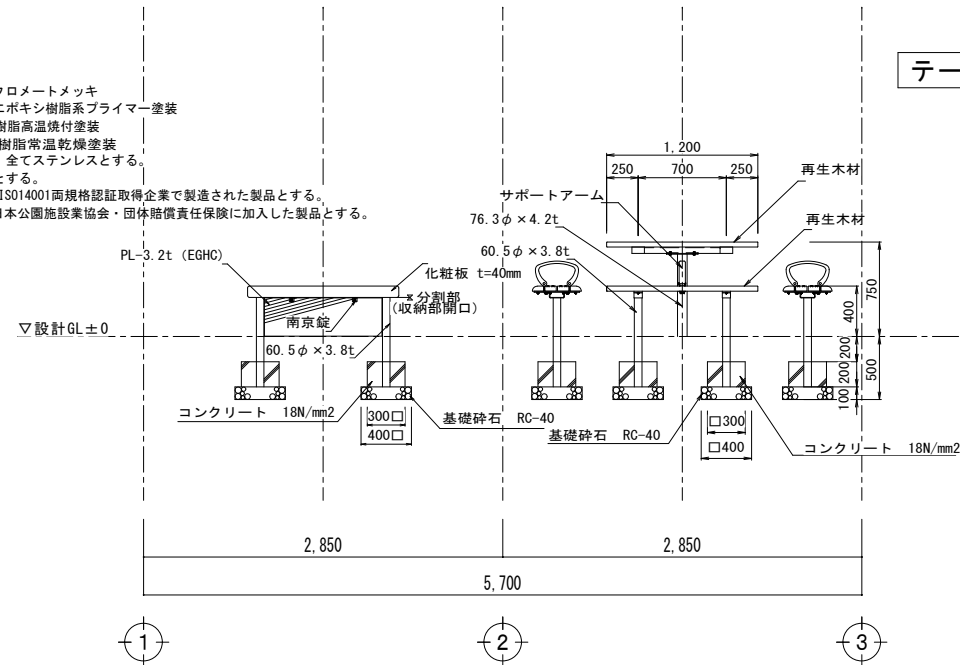
平面図 1/30



基礎伏図 1/30

縁台

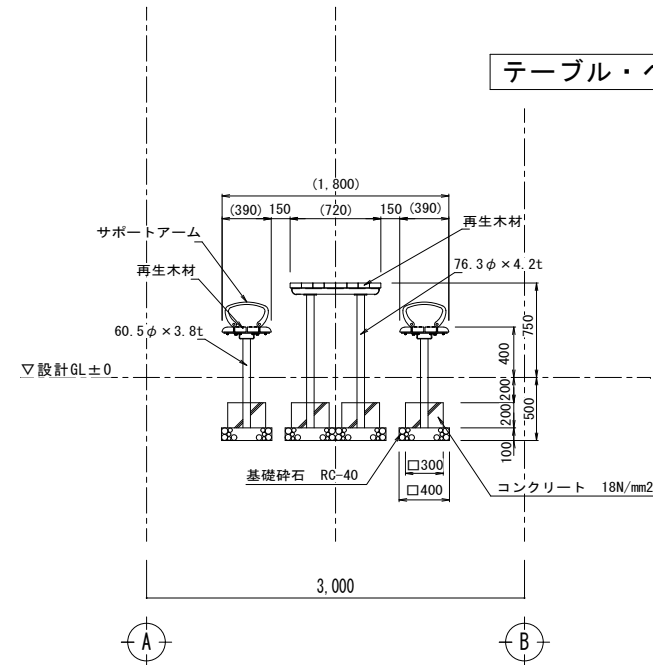
- 注)・塗装 下地：ジンクロメートメッキ
下塗：特殊エポキシ樹脂系プライマー塗装
合成樹脂高温焼付塗装
仕上：合成樹脂高温乾燥塗装
- ・ボルト・ナットは、全てステンレスとする。
 - ・縁台は、再生木材とする。
 - ・製品は、ISO9001・ISO14001両規格認証取得企業で製造された製品とする。
 - ・製品は、(一社)日本公園施設業協会・団体賠償責任保険に加入した製品とする。



西立面図 1/30

テーブル・ベンチ

- 注)・塗装 下地：ジンクロメートメッキ
下塗：特殊エポキシ樹脂系プライマー塗装
仕上：合成樹脂高温焼付塗装
- ・ボルト・ナットは、全てステンレスとする。
 - ・座板は、再生木材とする。
 - ・製品は、ISO9001・ISO14001両規格認証取得企業で製造された製品とする。
 - ・製品は、(一社)日本公園施設業協会・団体賠償責任保険に加入した製品とする。



南立面図 1/30

A1: 100%
A3: 50%



福山市建設局建築部営繕課

設計 2025年 8月

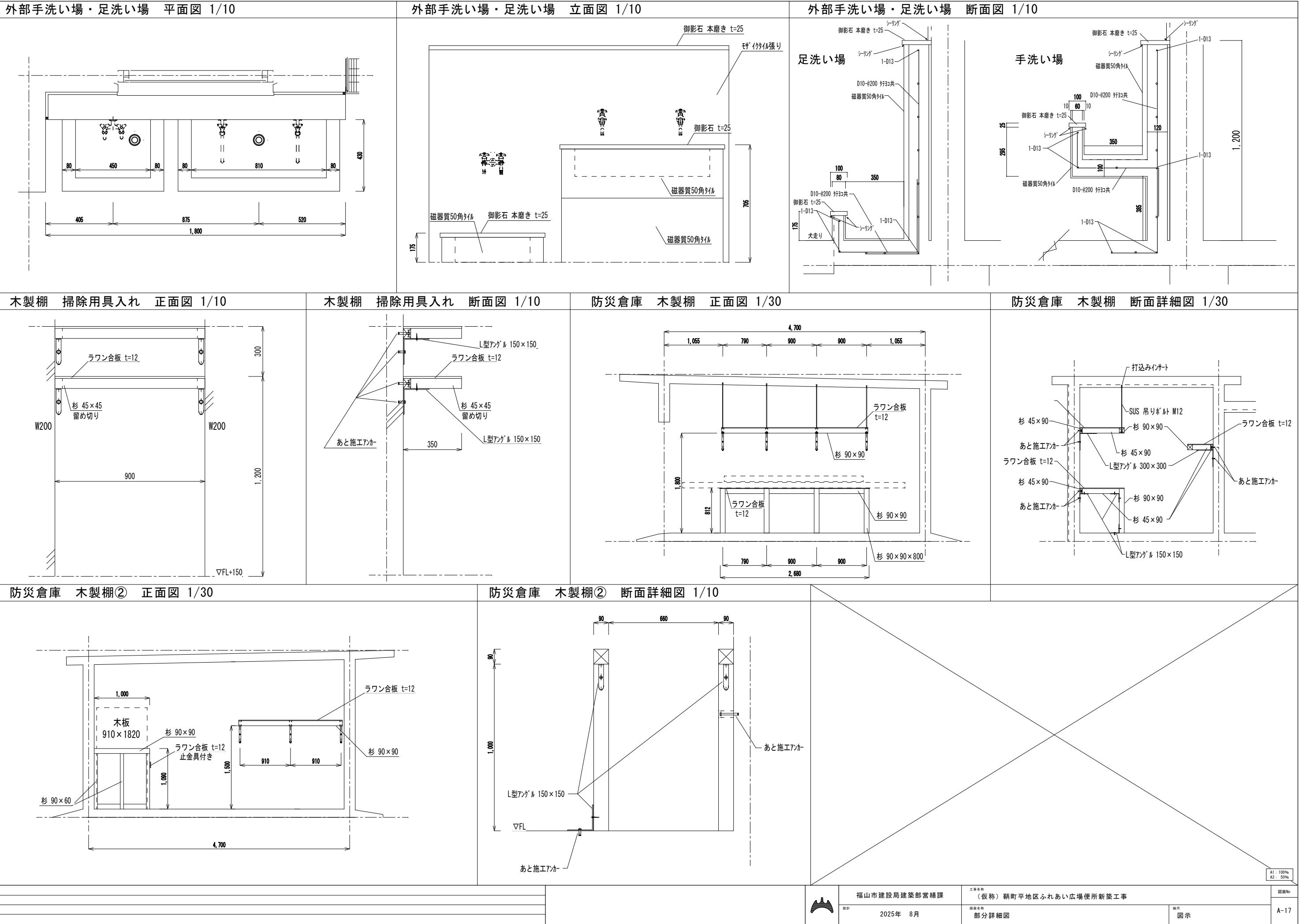
工事名称 (仮称) 鞆町平地区ふれあい広場便所新築工事

図面名称 縁台、テーブル・ベンチ

縮尺 1/30

図面No

A-15



④

①

基礎

※ 直接基礎（ ・ 地盤改良（ ・ 表層改良 ・ 柱状改良 ） ）
設計地耐力 KN/㎡
・ 杭基礎

2 試験及び報告書

試験杭 位置、本数及び寸法 ・ 最初の1本 ・ 図示による (4.2.2)
杭の載荷試験 ※ 行わない ・ 図示による (4.2.3)
地盤の載荷試験 ※ 行わない ・ 図示による (4.2.4)

3 既製コンクリート杭地業

施工管理技術者 ※適用する (4.3.2)
種類 (4.3.1～8)
・ 通心力高強度プレストレストコンクリート杭（PHC杭）
・ プレストレスト鉄筋コンクリート杭（PRC杭）
・ 外殻鋼管付きコンクリート杭（SC杭）
SC杭の鋼管材料 ・ SKK400 ・ SKK490 ・

寸法、継手、性能等

	符号	杭径 (mm)	杭長 (m) 及び種類	厚さ (mm)	継手数	本数	コンクリート強度 (N/mm ²)	長期設計支持力 (kN/本)	備考
試験杭			上杭 中杭 下杭						
本杭			上杭 中杭 下杭						

先端部材形状 ・ 開放形 ・ 半開放形 ・ 閉さく形
なお、特定埋込杭工法における杭材種はJIS又は認定条件に適合するものとする
ネガティブフリクション対策 ※不要 ・ 要（構造図による）
・ アーク溶接継手 ・ 標準仕様書4.3.6による
溶接材料 ・ 標準仕様書7.2.5(1)(2)による ・ 構造図による
・ 機械式継手 （※評定等を受けたもの）
機械式継手は評定等により定められた項目の検査を行う
施工は評定等に記された施工管理基準による
杭頭の処理 ・ 切断しない ・ 切断する
処理方法（切断にともなう補強方法含む）
※構造図による
杭頭の中詰材料 ※コンクリート（基礎コンクリートと同調合）（ ・ ）
施工方法 ・ セメントミルク工法
・ アースオーガーの支持地盤への掘削深さ ・ 1.5m程度
杭の支持地盤への根入れ深さ ・ 1.0m以上
・ 特定埋込杭工法
・ H13国交告1113号第6による支持力算定式でα＝250程度を採用できる工法
・ H13国交告1113号第6による支持力算定式でα＝、β＝、γ＝を採用できる工法
工法 ・ フレポーリング拡大根固め工法 ・ 中掘り拡大根固め工法
杭周固定液の使用 ・ する ・ しない
杭の精度
水平方向の位置ずれ ・ 杭径の1/4かつ100mm以下 ・
杭の傾斜 ・ 1/100以内 ・ 評定条件または認定条件による ・

4 鋼杭地業

施工管理技術者 ※適用する (4.4.2)
種類の記号 ・ SKK400 ・ SKK490 ・ (4.4.1～6)
寸法、継手、性能等

	符号	杭径 (mm)	杭長 (m) 及び種類	厚さ (mm)	継手数	本数	コンクリート強度 (N/mm ²)	長期設計支持力 (kN/本)	備考
試験杭			上杭 中杭 下杭						
本杭			上杭 中杭 下杭						

施工方法
・ 特定埋込み杭工法
・ H13国交告1113号第6による支持力算定式でα＝250程度を採用できる工法
・ H13国交告1113号第6による支持力算定式でα＝、β＝、γ＝を採用できる工法
工法 ・ 中掘り拡大根固め工法
杭の精度
水平方向の位置ずれ ・ 杭径の1/4かつ100mm以下 ・
杭の傾斜 ・ 1/100以内 ・ 評定条件または認定条件による ・
杭の現場継手 ・ 溶接継手
形状 ・ JIS A 5525による
溶接材料 ・ 標準仕様書7.2.5(1)(2)による ・ 構造図による
・ 機械式継手 （※評定等を受けたもの）
機械式継手は評定等により定められた項目の検査を行う
施工は評定等に記された施工管理基準による
杭頭の処理 ・ 処理しない
・ 処理する
処理方法（切断にともなう補強方法含む） ※構造図による
杭頭の中詰材料 ※コンクリート（基礎コンクリートと同調合）（ ・ ）

5 場所打ちコンクリート杭地業

施工管理技術者 ※適用する (4.5.2)
寸法等 (4.5.1～7)

	符号	軸径 (mm)	掘込径 (mm)	杭長 (mm)	セツト数	長期設計支持力 (kN/本)	備考
試験杭							
本杭							

材料
コンクリートの種類
・ A種 ※B種
・ 評定等の内容による
コンクリートの設計基準強度（ ） N/mm²以上
構造体強度補正值
・ 3N/mm² ・ 構造図による ・ 評定等の内容による
セメントの種類 ※高炉セメントB種
スランプ値
※18cm ・
鉄筋の種類 ※5章鉄筋工事の鉄筋の種類による
鋼管巻きの材料 ・ SKK400 ・ SKK490 ・
鋼管径・板厚・長さ ※構造図による
掘削工法 ・ アースドリル工法（安定液 ※使用する ・ 使用しない）
・ リバース工法
・ オールケーシング工法（孔内の水張 ・ 行う ・ 行わない）
併用する工法 ・ 場所打ち鋼管コンクリート杭工法
鋼管巻き材料 ・ SKK00 ・ SKK490 ・ （ ・ ）
・ 掘削工法（安定液 ※使用する ・ 使用しない）
孔壁測定 ※行う
測定方法 ※超音波測定器
測定場所 ※試験杭（ ）箇所及び本杭（ ）箇所
・ 行わない
鉄筋かごの補強
・ 標準仕様書4.5.4(1)(f)(g)による
・
鉄筋の最小かぶり厚さ ・ 100mm ・
鉄筋の重ね継手長さ、主筋の基礎底盤への定着長さ ※構造図による
杭の精度
水平方向の位置ずれ ・ 杭径の1/4かつ100mm以下 ・
杭の傾斜 ・ 1/100以内 ・ 評定条件または認定条件による ・

⑥ 砂利及び砂地業

厚さ (mm) ※ 60 ◎ 100 (4.6.3)
材料 ◎ 直接基礎 ※ 切込砂利又は切込砕石 (4.6.2)
・ その他 ※ 再生クラッシュラン

⑦ 捨コンクリート地業

厚さ (mm) ※ 50 (4.6.4)

⑧ 床下防湿層

・ ポリエチレンフィルム 厚 ※ 0.15mm以上 (4.6.5)

9 断熱材

※ 19章「内装工事」9項「断熱材」による

⑤ 鉄筋の種類

鉄筋 (表5.2.1)

類 別	種 別	径 (mm)
※ JIS G 3112	◎ SD295	D10以上
	・ SD345	

② 溶接金網

網目の形状、寸法及び径 (mm) ◎ 6φ×150×150 (5.2.2)
施工場所（ ）

3 柱・梁の鉄筋の継手

・ ガス圧接（SD295は不可） ・ 重ね継手（ ） (5.3.4)
・ 機械式継手 ・ 溶接継手 (5.4.2)
継手位置 ※ 鉄筋工事仕様書による ・ 図示による
※ 鉄筋工事仕様書による ・ 各部配筋参考図7.1 ・ 図示による

4 梁貫通孔補強

※ 鉄筋工事仕様書による

5 圧接完了後の検査

検査方法 ※ 超音波深傷試験 (5.4.10)
・ 引張試験

6 柱の帯筋

・ 組み立ての形はSP形とする。 (鉄筋工事仕様書)

⑥ ① コンクリートの強度

※ 普通コンクリート (6.2.2)(6.2.4)(表6.2.2)

設計基準強度 Fc (N/mm ²)	スランプ (cm)	適用箇所
※ 21	18	
※ 21	15	基礎、上部躯体

※ 軽量コンクリート (6.10.1～6.10.4)

設計基準強度 Fc (N/mm ²)	種類	スランプ (cm)	適用箇所
	・ 1種 ・ 2種		

※ 屋根床版のスランプは15cmとする。

② コンクリートの類別

※ I 類 ・ II 類 (6.2.1)(表6.2.1)

③ 水セメント比

◎ 65 % ・ % (6.3.2)
(6.3.2)

④ コンクリート中の塩化物量

※ 0.30kg/m²以下

⑤ コンクリートのアルカリ総量

・ アルカリ量が表示されたポルトランドセメント等を使用し、コンクリート中の総アルカリ量を3.0kg/m³以下とする。 (6.5.4)

⑥ コンクリートの仕上り

打放し仕上の種類 (6.2.5)(表6.2.3)

※ 合板せき板を使用する場合

種 別	せき板の種類	表面・せき板の程度	適用箇所
・ A種	JAS（表面加工品）	表6.2.4	※ 図示 ・
※ B種	JAS B－C	表6.2.4	・
・ C種	JAS B－C	表6.2.4	・

⑦ コンクリートの材料

セメント

セメントの種類	使用部位
※ 普通ポルトランドセメント	
・ 高炉セメントA種	
・ シリカセメントA種	
・ フライアッシュセメントA種	
・ 高炉セメントB種	
・ フライアッシュセメントB種	

混和材料 ※ A 剤、A 剤減水剤又は高性能A 剤減水剤（JIS A 6204）
※ フライアッシュ（JIS A 6201）I 種、II 種若しくはIV 種
※ 高炉スラグ微粉末（JIS A 6206）
※ シリカフューム（JIS A 6207）又は膨張材（JIS A 6202）

⑧ コンクリート製造工場の選定

※ レディミクストコンクリート工場の選定は、監督員の承諾を受ける。 (6.4.1)

⑨ 強度

構造体強度補正值 S (N/mm²)
適用箇所 ※建物本体 ・ (6.3.2)(表6.3.2)

セメント	地域	4～10月				11月				12月				1月				2月				3月			
		全 て				上旬				中旬				上旬				中旬				上旬			
普通ポルトランドセメント	市内全域	3.0								6.0												3.0			
早強ポルトランドセメント	北部地域	3.0								6.0												3.0			
セメント	その他	3.0								6.0				3.0											

・ 北部地域 ・ 新市町・芦田町・山野町の全域及び駅家町・加茂町・神辺町の都市計画区域外の地域
・ その他 ・ 上記以外の地域

10 暑中コンクリート

※ 日平均気温の平年値が25度を超える期間にコンクリートを打ち込む場合 (6.12.1～6.12.4)
構造体強度補正值 S (N/mm²) 6.0 N/mm²

11 暑中コンクリート

適用期間（ ） (6.11.1～6.11.6)

⑫ コンクリートの強度試験

※（表6.9.2）による (6.9.1～6.9.5)

⑬ 外部に面するコンクリート打放し仕上

※ 打増厚さ（ 20 ） (6.8.2)

⑭ 型枠のせき板

※ 合板（12mm） ・ 合板（15mm） (6.8.2)
・ 床型枠用鋼製デッキプレート（実績等の資料を提出）
・ メッシュ型枠（ ）
・ 断熱材兼用型枠（25mm以下かつ熱抵抗値1m²℃/Kcal以上）
・ MCR工法用シート（気泡発泡ポリエチレンシート）（ ）

15 マスコンクリート

セメントの種類（ ） (6.13.2)
混和材料（ ）
適用箇所（ ）

16 水密コンクリート

水セメント比（ /wt）	スランプ (cm)	適用箇所
※50	※15	

⑰ 打継部

止水板 止水ゴムの製造所（ ）
適用箇所（ ）
打継ぎ目地 ※ 図示による ・ 幅20mm以上 深さ10mm以上
打継ぎ位置 ※ 標仕による ・

⑱ 無筋コンクリート

適用箇所 ※ 6.14.1による ・ (6.14.1)
粗骨材の最大寸法（捨コンクリート及び防水保護コンクリートの場合） (6.14.2)
※ 25mm以下
コンクリートの品質 (6.14.1)

種 類	設計基準強度 Fc (N/mm ²)	スランプ (cm)	適用箇所
普通コンクリート	18	◎ 15 ・ 18	◎ 捨コンクリート

19 流動化コンクリート

・ 適用（ ） (6.15.1)

6 ターンバックル

鋼の種類 ※ 割特式 ・ (7.2.6)
ボルトの種類 ※ 羽子板ボルト ・

7 デッキプレート

(7.2.7)

	材質・形状・寸法
・ 構造床	
・ 合成スラブ	
・	

8 柱底均しモルタル

材 料 ・ モルタル ・ 無収縮モルタル（表7.2.5） (7.2.9)
工 法 ※ A 種 ・ B 種 (表7.10.2)

9 溶接部の試験

完全溶込み溶接部の超音波探傷試験 (7.6.12)(表7.6.2～7.6.3)
※行う ・ 行わない
工場溶接の場合
A O Q L ※ 4.0 % ・ 2.5 %
節 ※ 全て
検査基準 ※ 第6水準

10 錆止め塗装

鉄面 ・ JIS K5674 工場 回塗り 現場 回塗り (7.8.1～7.8.4)
・ JIS K5551、5552 工場 回塗り 現場 回塗り (18.7.2)
重鉛めつき面 ※18章 塗装工事による
耐火被覆材の接着面
・ 行う ・ 行わない (7.8.2)

11 耐火被覆

種別及び性能 (7.9.1～7.9.9)

種別	材料・工法	性能（耐火時間）	適用箇所（部位・部分）
・ 耐火材吹付け	・ 乾式吹付けロックウール		
	・ 半乾式吹付けロックウール		
	・ 湿式ロックウール		
・			
・			
・			
・ 耐火板張り	・ 繊維混入けい酸カルシウム板		
・			
・ 耐火材巻付け	・ 高耐熱ロックウール		
・			
・ 耐火塗料	・		
・ ラス張りモルタル塗り	—		

材料及び工法は、建築基準法に基づき指定又は認定を受けたものとする

12 溶融亜鉛めっき工法

種 別 ※ A 種（軽量形鋼は板厚によりB種・C種とする。） (7.12.4)
表14.2.2

13 溶融亜鉛めっき高力ボルト接合

摩擦面の処理 詳細は鉄骨工事仕様書による (7.12.5)
・ リン酸塩処理 ※ プラス処理

富山県建設局建築部営繕課

設計

2025年 8月

富山県建設局建築部営繕課

（仮称）朝町平地区ふれあい広場便所新築工事

建築工事 特記仕様書 構造関係

S-01

鉄筋工事仕様書 No. 1

この仕様書は、国土交通省大臣官房官営部監修の公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（令和4年版）5章鉄筋工事により作成する。この仕様書及び図面に明示なき場合は、公共建築工事標準仕様書（建築工事編）5章鉄筋工事による。

鉄筋の折曲げ基準

鉄筋の折曲げ形状及び寸法

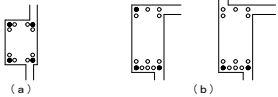
折曲げ角度	折 曲 げ 図	折曲げ内法直径（D）		
		SD295、SD345 D16以下	D19～D38	SD390 D19～D38
180°		3d 以上	4d 以上	5d 以上
135°				
90°				
135° 及び 90°		折曲げ内法直径（D） SD295、SD345、SD390 D16以下	D19～D25	D25～D38
折曲げ角度	折 曲 げ 図			
90° 未満				

（注）1. 片持ちスラブ先端、壁筋の自由端側で90° フック又は135° フックを用いる場合には、余長は4d以上とする。

異形鉄筋のフック

次の部分に使用する異形鉄筋の末端部にフックを付ける。

- 柱の四隅にある主筋の重ね継手（下図（a）の●印で示す鉄筋）
- 最上階の柱の四隅にある主筋の柱頭の定着（下図（a）の●印で示す鉄筋）
- 梁の出隅及び下端の両隅にある梁主筋の重ね継手（基礎梁を除く。）（下図（b）の●印で示す鉄筋）
- 煙突の鉄筋（壁の一部となる場合を含む。）
- 杭基礎のベース筋
- 帯筋、あばら筋及び幅止め筋



鉄筋の継手及び定着

1. 鉄筋の継手

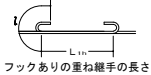
鉄筋の重ね継手は、次による。

- 原則として、D35以上の異形鉄筋については、重ね継ぎ手を用いない。なお、径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い鉄筋の径による。
- 7) 柱及び梁の主筋並びに耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さは、特記による。特記がなければ、耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さは、40d（軽量コンクリートの場合は50d）又は下表の重ね継手の長さのうちいずれか大きい値とする。
- 4) 7) 以外の鉄筋の重ね継手の長さは、下表による。

鉄筋の重ね継手の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm ²)	L ₁ （フックなし）	L _{1n} （フックなし）
SD295	18	45d	35d
	21	40d	30d
	24、27	35d	25d
	30、33、36	35d	25d
SD345	18	50d	35d
	21	45d	30d
	24、27	40d	30d
	30、33、36	35d	25d
SD390	21	50d	35d
	24、27	45d	35d
	30、33、36	40d	30d

（注）1. L₁、L_{1n}：重ね継手の長さ及びフックありの重ね継手の長さ
2. L_{1n}は、下図に示すようにフック部分に1を含む。
3. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。



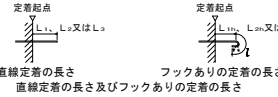
2. 鉄筋の定着

- 7) 鉄筋の定着の長さは、特記による。特記がなければ、下表による。

鉄筋の定着の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm ²)	直線定着の長さ			フックあり定着の長さ		
		L ₁	L ₂	L ₃	L _{1n}	L _{2n}	L _{3n}
SD295	18	45d	40d	20d	35d	30d	10d
	21	40d	35d	150mm以上	30d	25d	10d
	24、27	35d	30d	150mm以上	25d	20d	10d
	30、33、36	35d	30d	150mm以上	25d	20d	10d
SD345	18	50d	40d	20d	35d	30d	10d
	21	45d	35d	150mm以上	30d	25d	10d
	24、27	40d	35d	150mm以上	25d	20d	10d
	30、33、36	35d	30d	150mm以上	25d	20d	10d
SD390	21	50d	40d	20d	35d	30d	10d
	24、27	45d	40d	20d	35d	30d	10d
	30、33、36	40d	35d	20d	30d	25d	10d

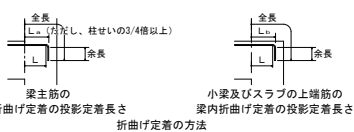
（注）1. L₁、L_{1n}：2. から4. まで以外の直線定着の長さ及びフックありの定着の長さ
2. L₂、L_{2n}：割裂破壊のおそれのない箇所への直線定着の長さ及びフックありの定着の長さ
3. L₃：小梁及びスラブの下端筋の直線定着の長さ。ただし、基礎耐力スラブ及びこれを受ける小梁は除く。
4. L_{3n}：小梁の下端筋のフックありの定着の長さ。
5. フックありの定着の場合は、下図に示すようにフック部分1を含む。
また、中間部での折曲げは行わない。
6. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。



4) 定着の方法

仕口内に縦に折曲げて定着する鉄筋の定着長さし、フックありの定着の長さを確保できない場合の折曲げ定着の方法は、特記による。特記がなければ、下図により、下記の条件を全て満足するものとする。

- (a) 全長は、7) の直線定着の長さ以上とする。
(b) 余長は、8d以上とする。
(c) 仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さし、及びし、は、下図に示す長さとする。ただし、梁主筋の柱内定着においては、柱せいの3/4倍以上とする。



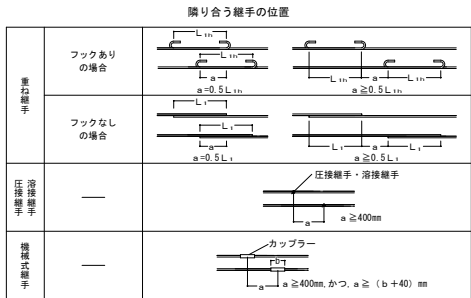
3. 鉄筋の投影定着長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm ²)	投影定着長さ	
		L ₁	L ₂
SD295	18	20d	15d
	21	15d	15d
	24、27	15d	15d
	30、33、36	15d	15d
SD345	18	20d	20d
	21	20d	15d
	24、27	20d	15d
	30、33、36	15d	15d
SD390	21	20d	20d
	24、27	20d	20d
	30、33、36	20d	15d

（注）1. L₁：梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ（基礎梁、片持梁及び片持スラブを含む。）
2. L₂：小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ（片持小梁及び片持スラブを除く。）
3. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。

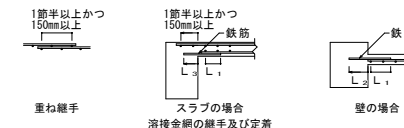
4. 隣り合う継手の位置

隣り合う継手の位置は、下図による。ただし、スラブ筋でD16以下の場合及び壁筋の場合は除く。なお、先組み工法等で、柱及び梁の主筋のうち、隣り合う継手を同一箇所に設ける場合は、特記による。

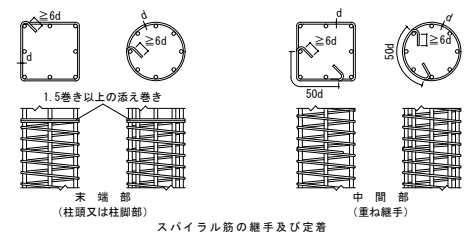


5. 溶接金網の継手及び定着

L₁ は 1. 4)、L₂ 及び L₃ は 2. 7) による。



6. スパイラル筋の継手及び定着



鉄筋のかぶり厚さ及び間隔

1. 鉄筋（溶接金網含む）の最小かぶり厚さ（mm）
柱及び梁の主筋にD29以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上確保するように最小かぶり厚さを定める。

鉄筋及び溶接金網の最小のかぶり厚さ（単位：mm）

構造部分の種類	最小かぶり厚さ（mm）	
	スラブ、耐力壁以外の壁	柱、梁、耐力壁
土に接しない部分	仕上げあり	20
	仕上げなし	30
	仕上げあり	30
	仕上げなし	30
土に接する部分	仕上げあり	30
	仕上げなし	30
	仕上げあり	40
	仕上げなし	40
煙突等高温を受ける部分	柱、梁、スラブ、壁	40
	基礎、擁壁、耐力スラブ	60

（注）1. 普通コンクリートに適用し、軽量コンクリートには適用しない。また、塩害を受けるその他のある部分等耐久性上不利な箇所には適用しない。
2. 「仕上げあり」とは、モルタル塗り等の仕上げのあるものとし、鉄筋の耐久性上有効でない仕上げ（仕上塗料、塗装等）のものを除く。
3. スラブ、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨てコンクリートの厚さを含めない。
4. 杭基礎の場合の基礎下端筋のかぶり厚さは、杭先端からとする。

2. 鉄筋相互のあき

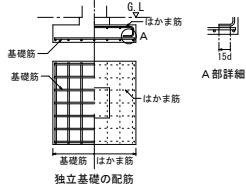
- 1) 次の値のうち最大のもの以上とする。
(7) 粗骨材の最大径Dの1.25倍
(4) 25mm
(4) 隣り合う鉄筋の径の平均の1.5倍
2) 鉄骨鉄筋コンクリート造の場合、主筋と平行する鉄骨とのあきも、同様とする。
3) 貫通孔に接する鉄筋のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。
3. 鉄筋の表示記号

丸	鋼	9φ	13φ	16φ	19φ	22φ	25φ	28φ	32φ
異形鉄筋	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D28	D32	
記 号	●	×	∅	●	○	○	○	○	○

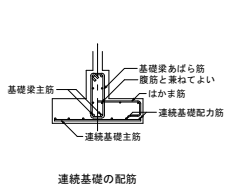
基礎の配筋

1. 直接基礎の配筋

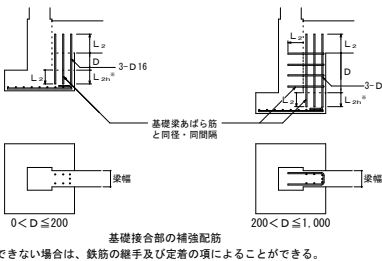
(1) 独立基礎



(2) 連続基礎



2. 基礎接合部の補強配筋



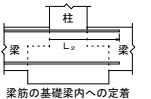
※ L_{1n}を確保できない場合は、鉄筋の継手及び定着の項によることができる。

基礎梁の配筋

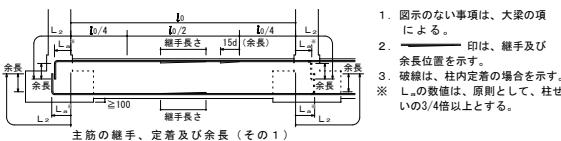
1. 基礎梁主筋の継手、定着及び余長

1) 一般事項

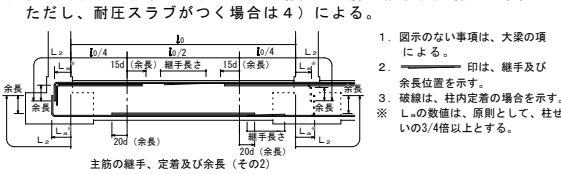
- (7) 梁筋は、原則として、柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことができない場合は、柱内に定着する。ただし、やむを得ず梁内に定着する場合は、下図による。
- (4) 梁筋を柱内に定着する場合は、梁の配筋 1. 1) (4) による。



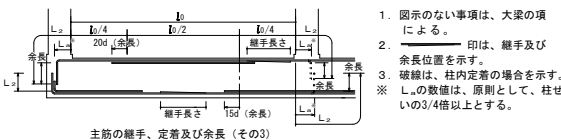
2) 独立基礎で基礎梁にスラブが付かない場合の主筋の継手、定着及び余長



3) 独立基礎で基礎梁にスラブが付く場合の主筋の継手、定着及び余長

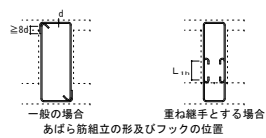


4) 連続基礎及びびた基礎の場合の主筋の継手、定着及び余長



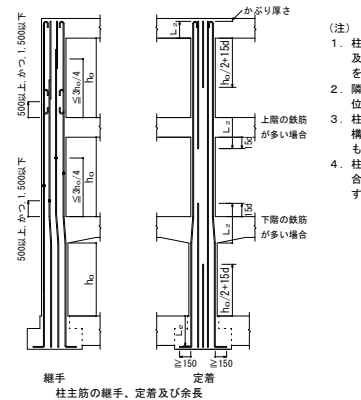
2. 基礎梁のあばら筋

あばら筋組立の形及びフックの位置は、梁の配筋 2. 1) による。ただし、梁の上下にスラブがつく場合で、かつ、梁せいが1.5m以上の場合は、下図によることができる。



柱の配筋

1. 柱主筋の継手、定着及び余長



（注）1. 柱の四隅にある主筋で、重ね継手の場合及び最上階の柱頭にある場合には、フックを付ける。
2. 隣り合う継手の位置は、「隣り合う継手の位置」による。
3. 柱頭定着長さし確保できない場合は、構造計算等により必要長さの確認を行うものとする。
4. 柱頭主筋について、梁上端主筋との取合いを考慮し、適切なかぶり厚さを確保する。

2. 帯筋組立の形及び割付け

① H形



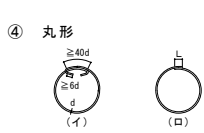
② W-I形



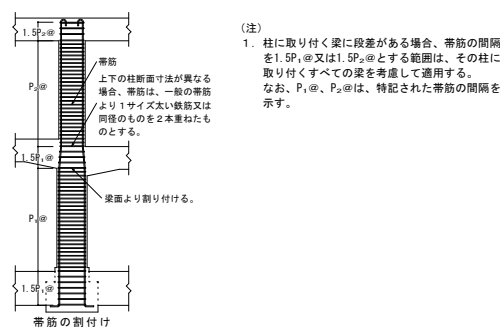
③ S P形（スパイラル筋）



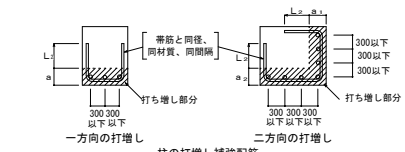
（注）溶接は、鉄筋の組立前に行う。



- (1) H形を標準とする。
(2) フック及び継手の位置は、交互とする。
(3) 溶接する場合の溶接長さしは、両面重ねアーク溶接の場合は5d以上、片面重ねアーク溶接の場合は10d以上とする。
(4) S P形において、柱頭及び柱筋の端部は、1.5巻以上の添巻きを行う。
(5) H形の135° 曲げのフックが困難な場合は、W-I形とする。



4. 柱の打ち増し補強



- (1) 柱の打ち増し幅（a、a₁、a₂）が70mm以上の場合の補強を示す。
(2) 帯筋と同一方向の補強筋は、帯筋と同径、同材質、間隔とし定着長さはL₂とする。
(3) 軸方向の補強筋間隔は300mm以下とする。

梁の配筋

1. 大梁主筋の継手、定着及び余長

1) 大梁主筋の継手及び定着の一般事項

- (7) 梁主筋は、原則として、柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことができない場合は、柱内に定着することができる。ただし、やむを得ず梁内に定着する場合は、下図による。

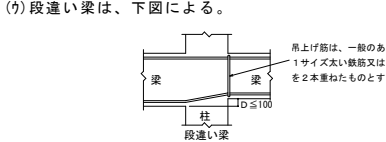


(4) 梁主筋を柱内に折り曲げて定着する場合は次による。

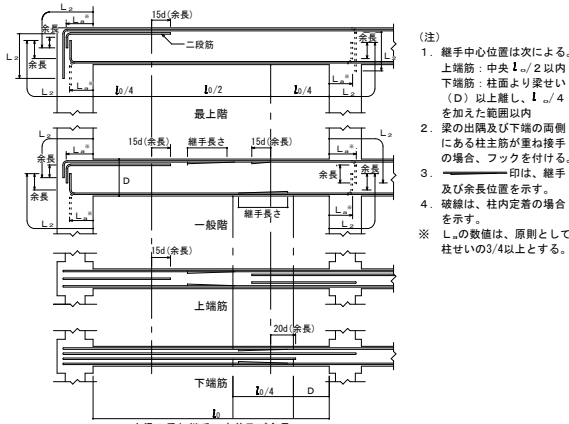
なお、定着の方法は継手及び定着の項による。

上端筋：曲げ降ろす。

下端筋：原則として曲げ上げる。

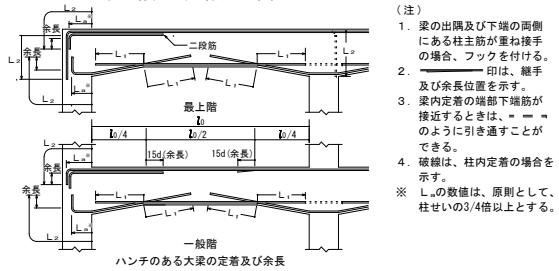


2) ハンチのない場合の重ね継手、定着及び余長



（注）1. 継手中心位置は次による。
上端筋：中央L₁/2以下
下端筋：柱面より梁せいの（D）以上とし、L₁/4を加えた範囲以内
2. 梁の出隅及び下端の両側にある柱主筋が重ね継手の場合、フックを付ける。
3. 印は、継手及び余長位置を示す。
4. 破線は、柱内定着の場合を示す。
※ L_{1n}を確保できない場合は、鉄筋の継手及び定着の項によることができる。

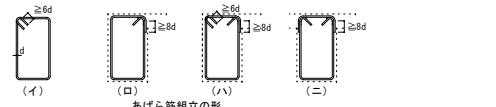
3) ハンチのある場合の定着及び余長



- （注）1. 梁の出隅及び下端の両側にある柱主筋が重ね継手の場合、フックを付ける。
2. 印は、継手及び余長位置を示す。
3. 梁内定着の端部下端筋が接近するときは、— — — のように引き通すことができる。
4. 破線は、柱内定着の場合を示す。
※ L_{1n}の数値は、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。

2. あばら筋（小梁、片持ち梁、基礎梁含む）の組立の形及び割付け等

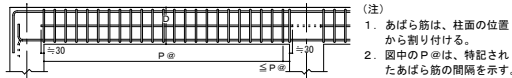
1) あばら筋組立の形及びフックの位置



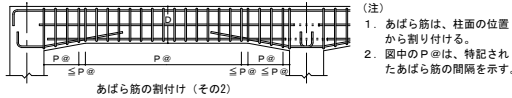
- (1) (イ) 形を標準とする。ただし、L形梁の場合は、(ロ)又は(ハ)、T形梁の場合は、(ロ)～(ニ)とすることができる。
(2) フックの位置は、(イ)の場合は交互とし、(ロ)の場合は、L形ではスラブの付く側、T形では交互とする。なお、(ハ)の場合は、床版の付く側を90° 折曲げとする。

2) あばら筋の割付け

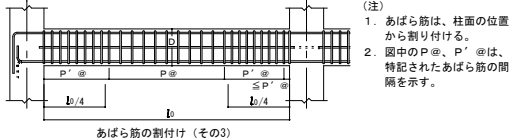
(7) 間隔が一樣で、ハンチのない場合



(4) 間隔が一樣で、ハンチのある場合

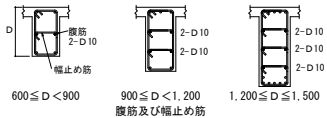


(7) 梁の端部で間隔の異なる場合



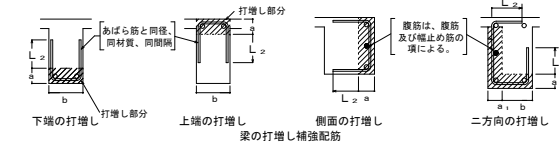
3) 腹筋及び幅止め筋

(1) 一般の梁



1. 腹筋に継手を入れる場合の継手長さは、150mm程度とする。
2. 幅止め筋及び受け用幅止め筋は、D10～1,000程度とする。

2. 打ち増し補強

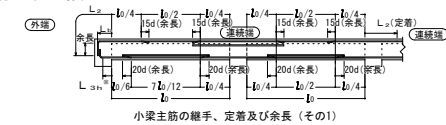


1. 梁の打ち増し幅（a、a₁、a₂）が70mm以上の場合の補強を示す。
2. あばら筋と同一方向の補強筋は、あばら筋と同径、同材質、間隔とし、定着長さはL₂とする。

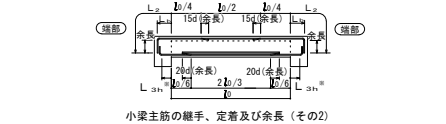
小梁及び片持ち梁

1. 小梁主筋の継手、定着及び余長

1) 連続小梁の場合



2) 単独小梁の場合



- （注）1. 印は、余長位置を示す。
2. 梁せいが小さく垂直で余長がとれない場合は、斜めにしてもよい。
3. 図示のない事項は、基礎梁及び大梁の項による。
※ L_{1n}を確保できない場合は、鉄筋の継手及び定着の項によることができる。

工事名称

（仮称）鞆町平地区ふれあい広場便所新築工事

図面名称

鉄筋工事仕様書 No. 1

福山市建設局建築部営繕課

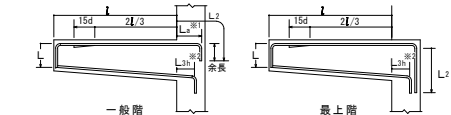
福山市

計 2025年8月

図面 N O .

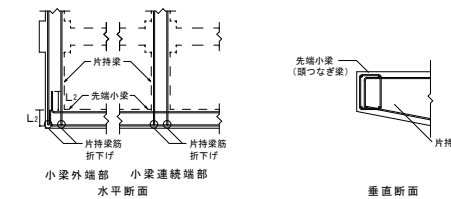
S-02

鉄筋工事仕様書 No. 2

2. 片持梁主筋の定着及び余長
1) 先端に小梁のない場合

- (注)
- 印は、余長位置を示す。
 - 先端の折曲げ長さは、梁せいからかぶり厚さを除いた長さとする。
 - 図示のない事項は、大梁の項による。
- ※1. L_1 の数値は、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。
※2. L_2 を確保できない場合は、鉄筋の継手及び定着の項によることができる。

2) 先端に小梁がある場合



- (注)
- 図示のない場合は、先端に小梁のない場合の項による。
 - 先端小梁終端部の主筋は、片持梁内に水平定着する。
 - 先端小梁の連続端は、片持梁の先端を貫通する通し筋としてよい。

壁及びその他の配筋

1. 壁の基準配筋

1) 壁の基準配筋は下図による。

壁の基準配筋		
種 別	縦筋及び横筋	断 面 図 (mm)
W12	D10-200@シングル	120
W15A	D10-150@シングル	150
W15B	D10-100@シングル	150
W18A	D10-200@ダブル	180
W18B	D10-150@ダブル	180
W20A	D10-200@ダブル	200
W20B	D10-150@ダブル	200

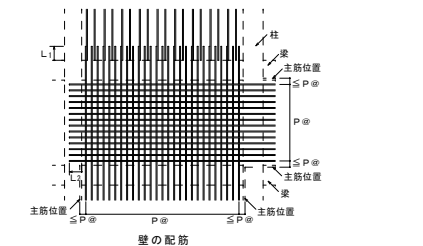
(注) 壁筋の配筋順序は、規定しない。

2) 片持ちスラブ形階段を受ける壁の基準配筋は下図による。

片持ちスラブ形階段を受ける壁の基準配筋			
種 別	縦筋及び横筋	断 面 図 (mm)	階段の配筋種別
KW1	縦 筋 D13-200@ タダ	180	KA1 KA3
KW2	縦 筋 D13-150@ タダ	200	KA2 KA4

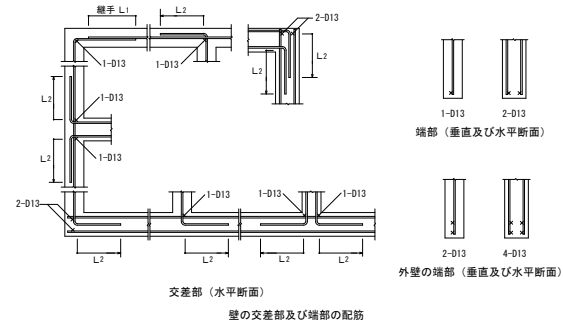
(注) 縦筋は、横筋の外側に配筋する。

2. 壁の継手及び定着



- (注)
- 図中のP@は、特記された壁筋の間隔を示す。
 - 壁配筋の重ね継手は L_1 、定着長さは L_2 とする。
 - 幅止め筋は、縦横ともD10～1,000@程度とする。
 - 原則として、柱及び梁内に、壁筋の継手を設けてはいけない。

3. 壁の交差部及び端部の配筋は、下図による。

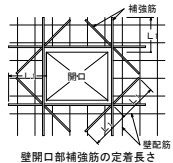


4. 壁開口部の補強

1) 耐震壁を除く壁開口部の補強筋は、A形又はB形とする。

壁開口部補強筋 (A形)			壁開口部補強筋 (B形)		
壁の種別	補 強 筋		壁の種別	補 強 筋	
W12, W15	縦 横	斜 め	W12, W15	縦 横	斜 め
W18, W20	1-D13	2-D13	W18, W20	2-D13	1-D13
	2-D13	2-D13		4-D13	2-D13

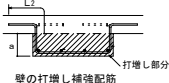
2) 壁開口部補強筋の定着長さは、下図による。



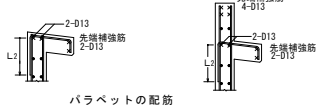
3) 開口部は柱及び梁に接する部分又は鉄筋を緩やかに曲げるにより開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。

5. 壁の打増し補強配筋

壁の打増し厚さ (a) が50mm以上の場合の補強を示す



6. バラベットの配筋



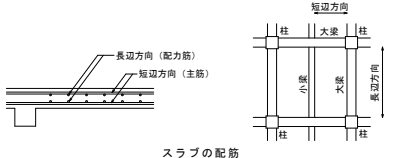
スラブの配筋

1. スラブの基準配筋

1) スラブの基準配筋

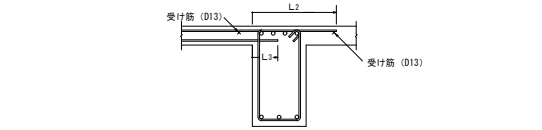
スラブの基準配筋					
配筋種別	短辺方向 (主筋) 全域	長辺方向 (配力筋) 全域	配筋種別	短辺方向 (主筋) 全域	長辺方向 (配力筋) 全域
S 1	D13-100@	D13-100@	S 8	D10, D13-150@	D10-150@
S 2	同 上	D13-150@	S 9	同 上	D10-200@
S 3	同 上	D10, D13-150@	S 10	D10, D13-200@	D10, D13-200@
S 4	D13-150@	D13-150@	S 11	同 上	D10-200@
S 5	同 上	D10, D13-150@	S 12	同 上	D10-250@
S 6	同 上	D10-150@	S 13	D10-200@	D10-200@
S 7	D10, D13-150@	D10, D13-150@	S 14	同 上	D10-250@

(注) 上端筋、下端筋とも同一配筋とする。

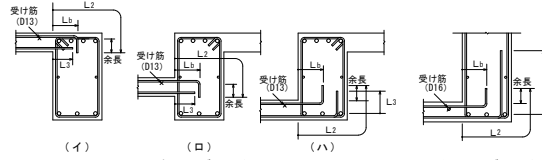


- 配筋の割付けは、中央から行い、端部は定められた間隔以下とする。
- 鉄筋の重ね継手長さは、 L_1 とする。

2. スラブ筋の定着及び受け筋



スラブ筋の定着長さ及び受け筋 (その1)

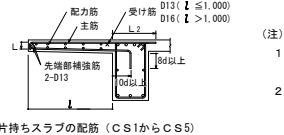


スラブ筋の定着長さ及び受け筋 (その2)

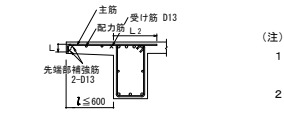
3. 片持ちスラブの基準配筋

1) 片持ちスラブの基準配筋

片持ちスラブの基準配筋							
配筋種別		主筋		配筋種別		主筋	
CS1	上	D13-100⊕		CS5	上	D10-200⊕	
	下	D13-200⊕			下	D10-400⊕	
CS2	上	D13-150⊕		CS6	上	D10、D13-200⊕	
	下	D13-300⊕			下	—	
CS3	上	D10、D13-150⊕		CS7	上	D10-200⊕	
	下	D10、D13-300⊕			下	—	
CS4	上	D10、D13-200⊕					
	下	D10-200⊕					

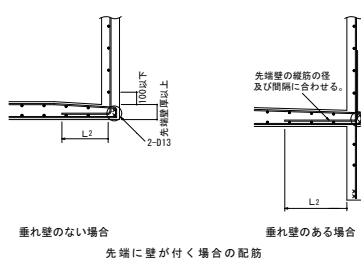


片持ちスラブの配筋 (CS1からCS5)



片持ちスラブの配筋 (CS6及びCS7)

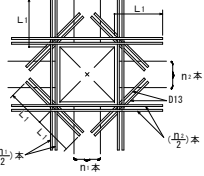
4. 先端に壁が付く場合の配筋は、下図による。



先端に壁が付く場合の配筋

5. スラブ開口部の補強 (スラブ開口部の最大径が700mm以下の場合に限る。)

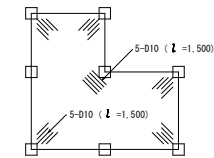
- スラブ開口部によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部に斜め方向に2-D13 ($L_1 \geq 2L_2$) シングルを上下筋の内側に配筋する。
- スラブ開口部の最大径が両方向の配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げるにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。



スラブ開口部の補強配筋

6. 出隅部及び入隅部の補強

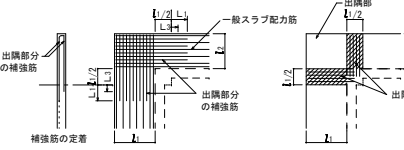
1) 屋根スラブの出隅部及び入隅部



補強筋を上端筋の下側に配置する。

出隅及び入隅部の補強配筋

2) 片持ちスラブの出隅部



- (注) 1. $L_1 \geq L_2$ とする。 (注) 1. $L_1 \geq L_2$ とする。
2. 出隅受け部配筋は柱又は梁に L_1 定着する。

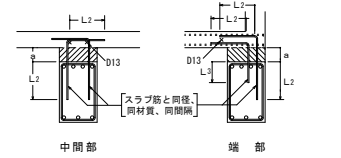
出隅部分の補強配筋

出隅受け部配筋

片持ちスラブ出隅部の補強配筋

7. スラブの打継ぎ補強等

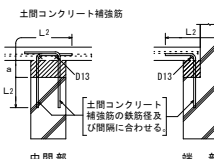
1) 土間スラブの打継ぎ補強



打継ぎ補強配筋

(注) 基礎梁と土間スラブを一体打ちとししないで、打継ぎを設ける場合の補強を示す。

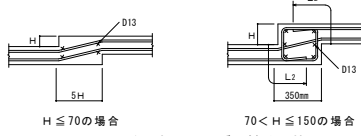
2) 土間コンクリートと基礎梁との接合部配筋



土間コンクリートと基礎梁との接合部配筋

- (注) 1. 土間コンクリートとは、土に接するスラブのうち、床荷重を直接支持地盤へ伝達できるものをいい、それ以外は土間スラブとして、梁及び柱を介して基礎へ荷重を伝達するものとする。
2. a が300mm以下の場合に限る。

8. 段差のあるスラブの補強



段差のあるスラブの補強配筋

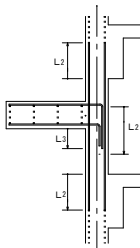
150mm以下の段差のあるスラブの場合に限る。

階段の配筋

1. 片持ちスラブ形階段

片持ちスラブ形階段の基準配筋は、下表及び下図により、寸法及び配筋種別は、特記による。

片持ちスラブ形階段の 基準配筋		
配筋種別	K A 1	K A 2
配筋図		
配筋種別	K A 3	K A 4
配筋図		



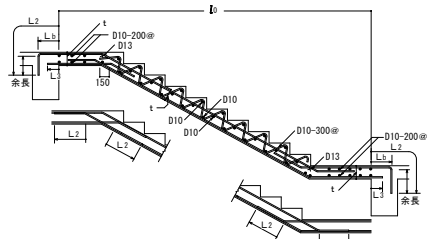
- (注)
- 壁配筋は、片持ちスラブ形階段を受ける壁の基準配筋による。
 - 階段主筋は、壁の中心線を越えてから縦におろす。
 - スラブ配力筋の継手及び定着の長さは、【鉄筋の定着長さ】の L_1 とする。

片持ちスラブ形階段配筋の定着

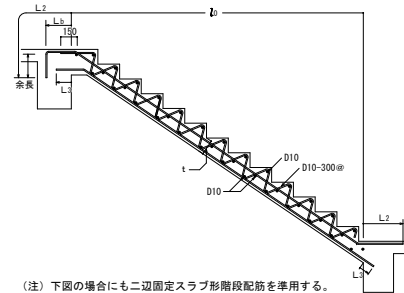
2. 二辺固定スラブ形階段

二辺固定スラブ形階段の基準配筋

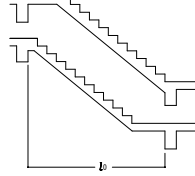
配筋種別	上端筋、下端筋とも (全域)	配筋種別	上端筋、下端筋とも (全域)
KB 1	D13-200@	KB 5	D16-150@
KB 2	D13-150@	KB 6	D16-125@
KB 3	D13-100@	KB 7	D16-100@
KB 4	D13, D16-150@		



二辺固定スラブ形階段配筋 (その1)



(注) 下図の場合にも二辺固定スラブ形階段配筋を準用する。

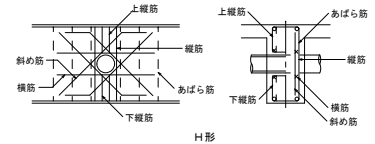


二辺固定スラブ形階段配筋 (その2)

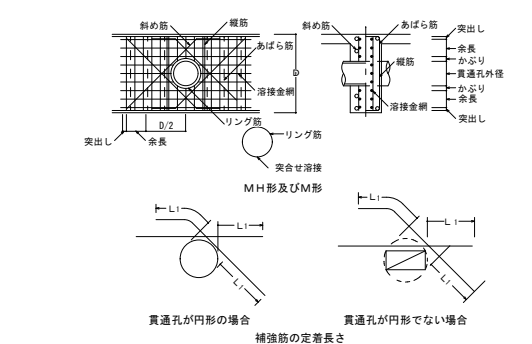
梁貫通孔及びその他の配筋

1. 梁貫通孔の配筋

- 梁貫通孔補強筋の名称等は、下図による。
- 孔の径は、梁せいの1/3以下とし、孔が円形でない場合はこの外接円とする。
- 孔の上下方向の位置は、梁せいの中心付近とし、梁中央部下端は梁下端よりD/3 (Dは梁せい) の範囲に設けてはならない。
- 孔は、柱面から、原則として、1.5D (Dは梁せい) 以上離す。ただし、基礎梁及び壁付帯梁は除く。
- 孔が並列する場合の中心間隔は、孔の径の平均値の3倍以上とする。
- 縦筋及び上下縦筋は、あばら筋の形に配筋する。
- 補強筋は、主筋の内側とする。また、鉄筋の定着長さは、下図による。
- 孔の径が梁せいの1/10以下、かつ、150mm未満のものは、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。
- 溶接金網の余長は1格子以上とし、突出しは10mm以上とする。
- 溶接金網の貫通孔部分には、鉄筋1-13φのリング筋を取り付ける。なお、リング筋は、溶接金網に4箇所以上溶接する。
- 溶接金網の割付け始点、横筋であればら筋の下側とし、縦筋は貫通孔の中心とする。



H形



2. 梁貫通孔の補強形式

H形配筋					配 筋 図
配筋種別	斜め筋	縦 筋	横 筋	上下筋	
H 1	なし	なし	なし	なし	
H 2	2-2-D13	2-2-D13			
H 3	4-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H 4	4-2-D16				
H 5	4-2-D16				
H 6	4-2-D19	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H 7	4-2-D22				

(注) - - - は、一般部分のあばら筋を示す。

M形配筋				配 筋 図
配筋種別	縦 筋	溶接金網		
M 1	2-2-D13	なし		
M 2	4-2-D13			
M 3	4-2-D13			
M 4	6-2-D13			

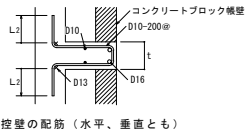
(注) - - - は、一般部分のあばら筋を示す。

配筋種別	斜め筋	縦 筋	溶接金網	配 筋 図
MH 1	なし	なし		
MH 2	2-2-D13	2-2-D13		
MH 3	2-2-D13			
MH 4	4-2-D13	2-2-D13	2-6φ-100@	
MH 5	4-2-D16			
MH 6	4-2-D16			
MH 7	4-2-D19	4-2-D13	2-6φ-100@	

(注) 1. 大底認定による既製品を使用する場合は、適用条件はすべて認定内容による。

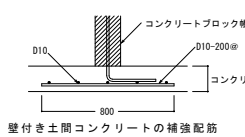
3. コンクリートブロック帳壁との取合い

1) 控壁の配筋



控壁の配筋 (水平、垂直とも)

2) 帳壁が土間コンクリート上に設置される場合の補強



壁付土間コンクリートの補強配筋

工事名称 (仮称) 鞆町平地区ふれあい広場便所新築工事

図面名称 鉄筋工事仕様書 No. 2

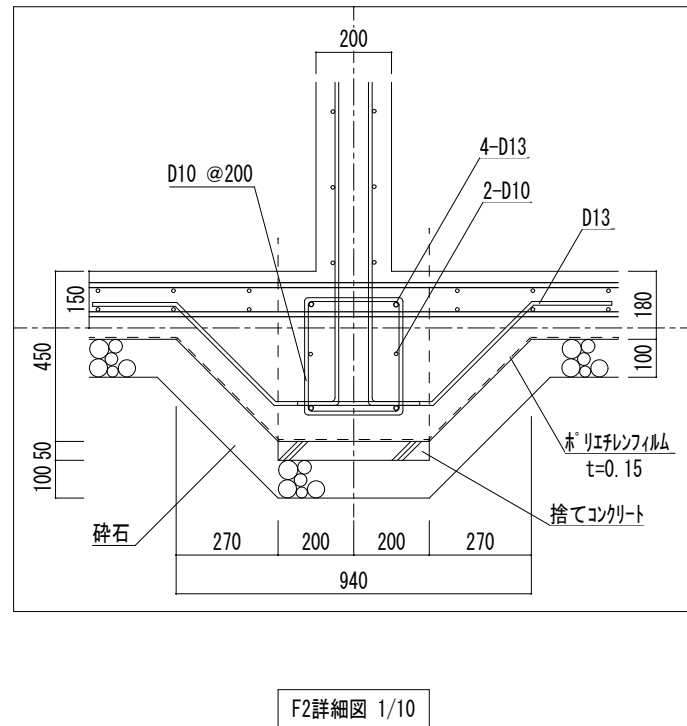
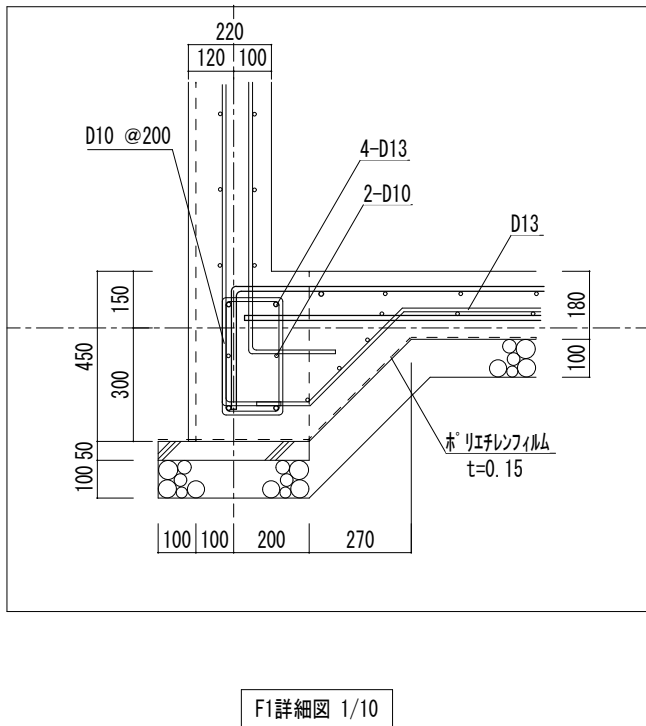
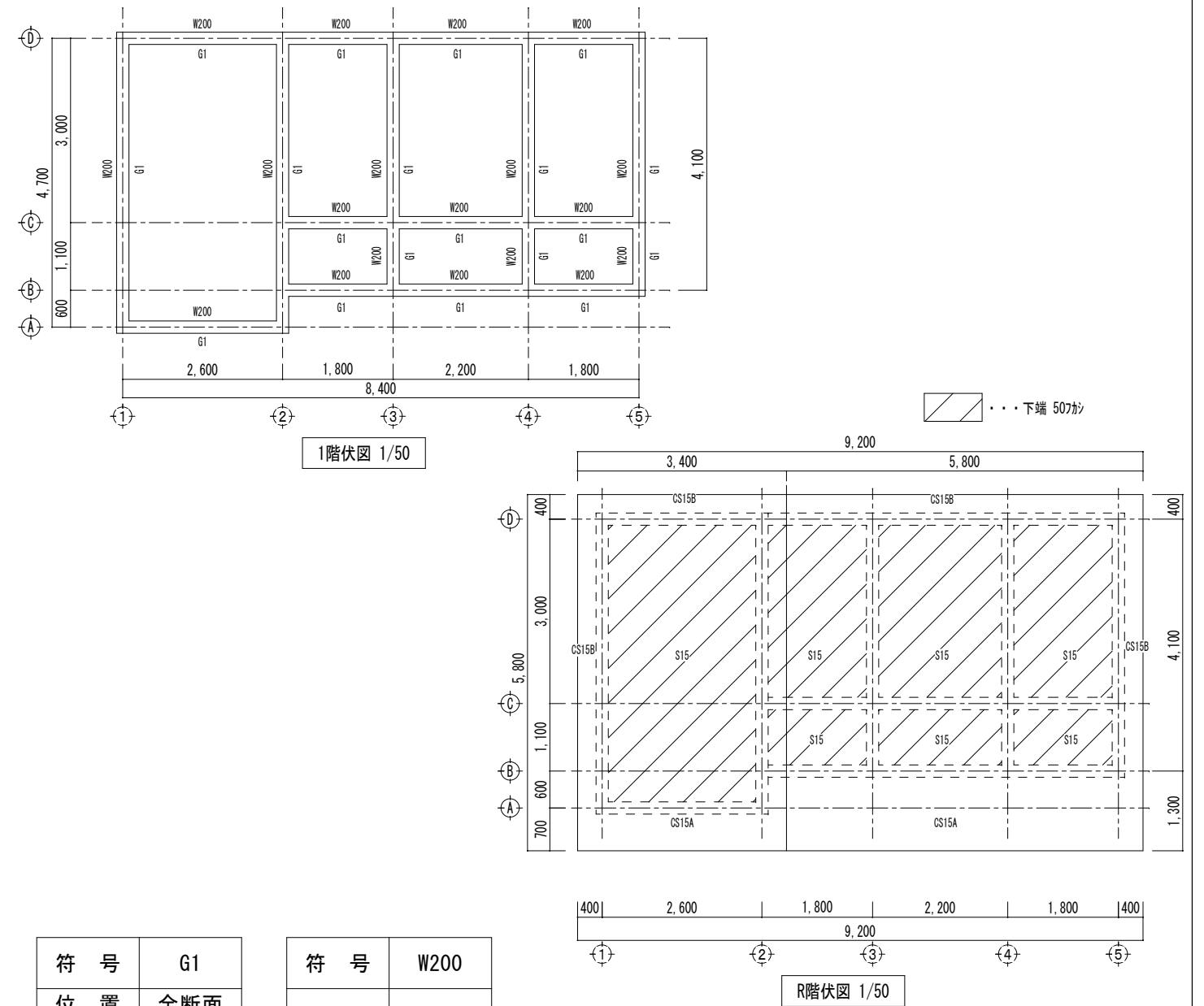
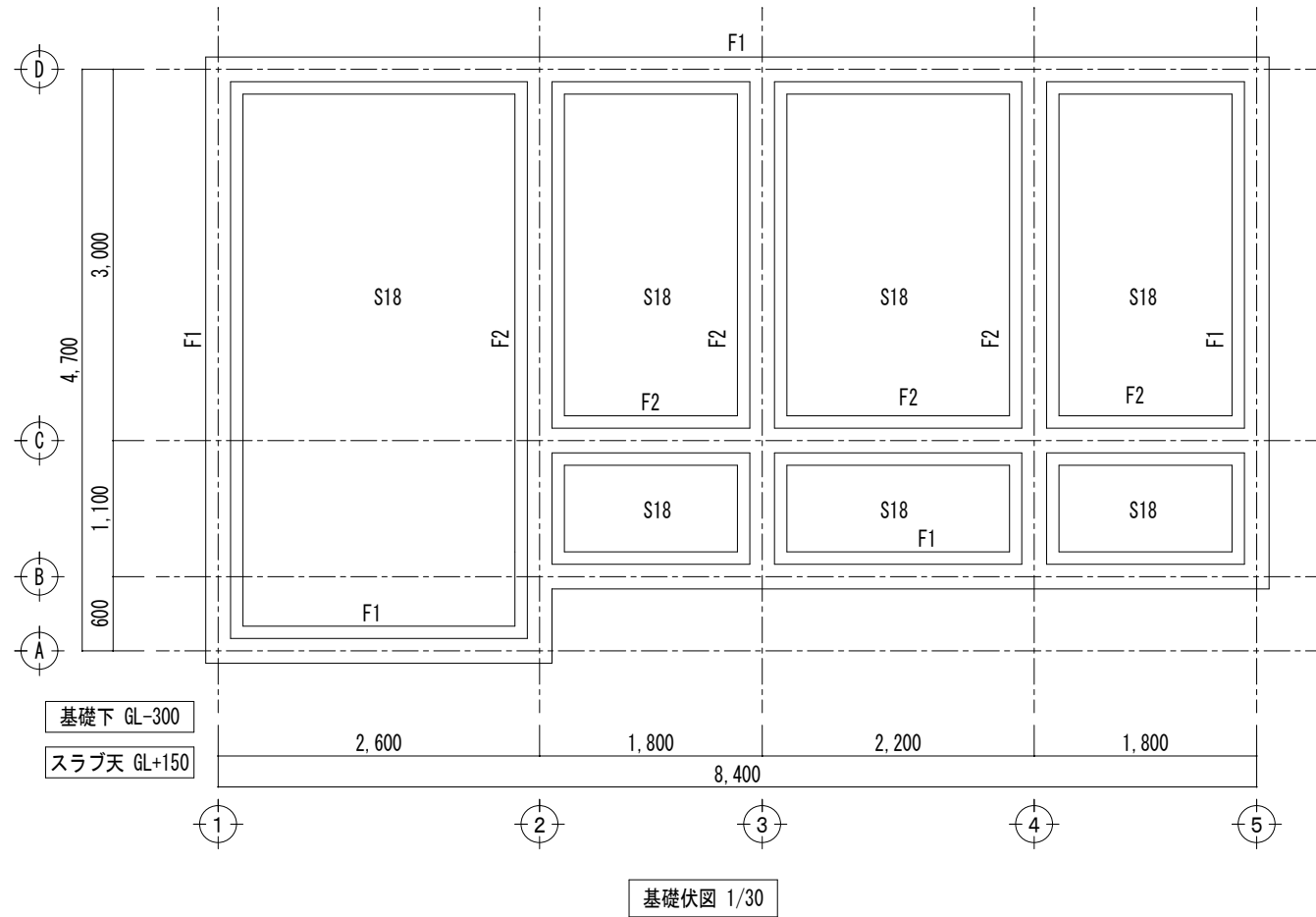
福山市建設局建築部営繕課

福山市

2025年8月

図面No.

S-03



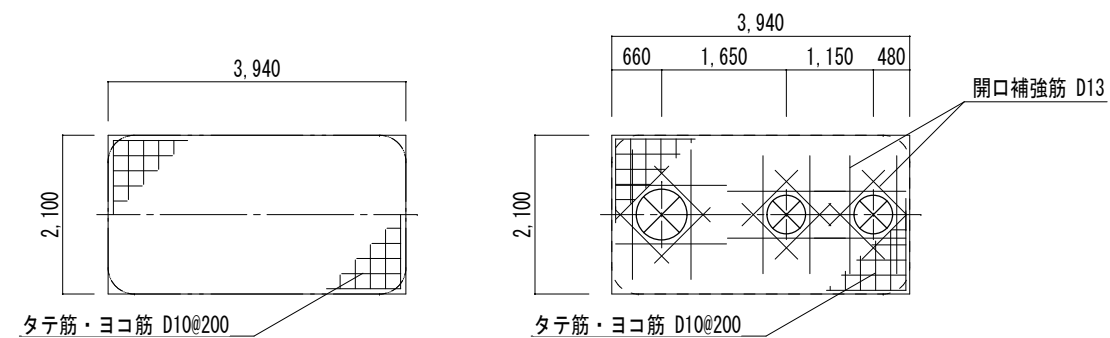
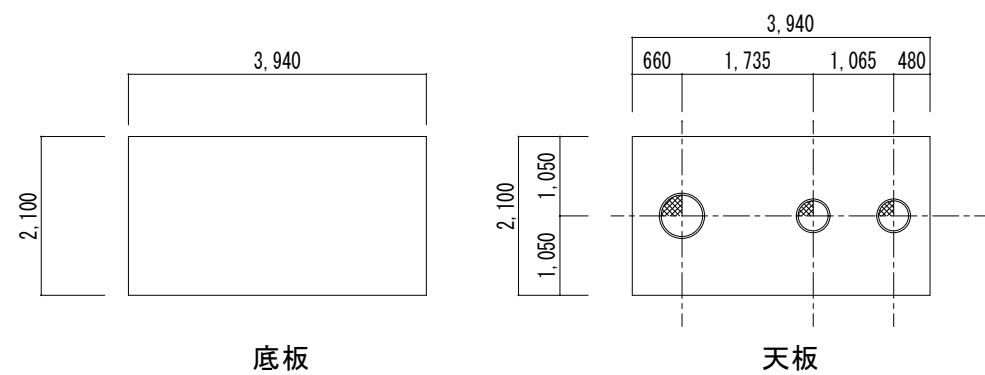
符 号	G1
位 置	全断面
断 面	
上端筋	2-D13
下端筋	2-D13
肋 筋	D10-□@200
腹 筋	2-D10

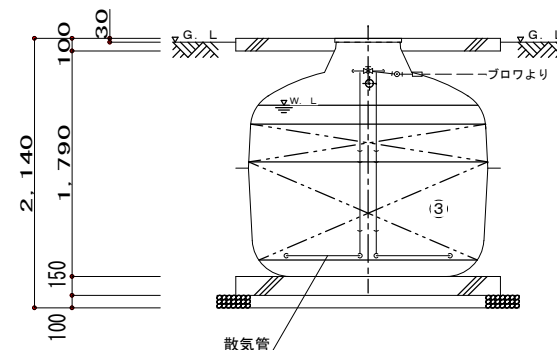
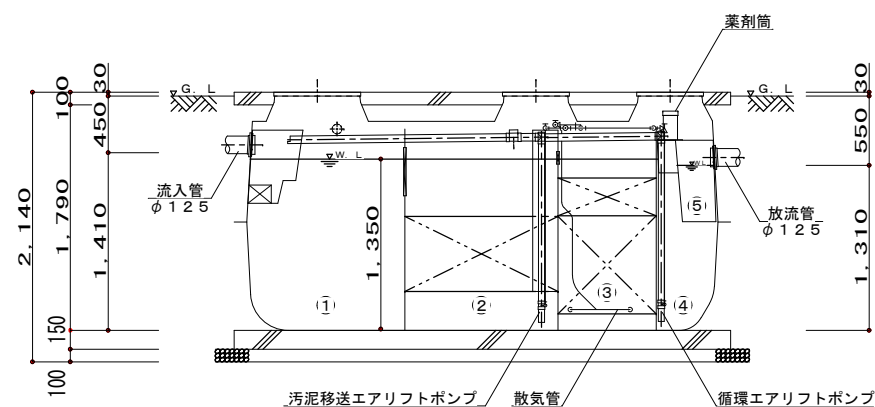
符 号	W200
断 面	
縦 筋	2-D10-@200
横 筋	2-D10-@200
縦補強筋	2-D13
横補強筋	2-D13
斜補強筋	2-D13

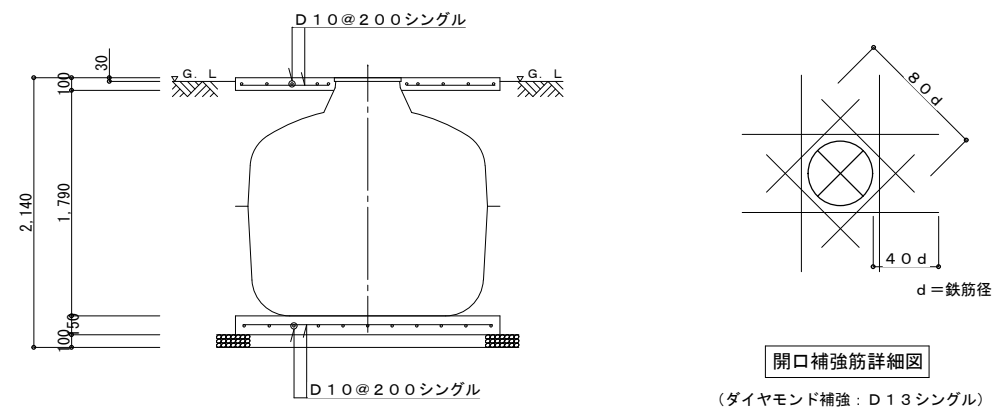
符 号	スラブ厚	位 置	短辺方向(主筋)	長辺方向(配力筋)
S15	150	上端筋 下端筋	D10-@200 D10-@200	D10-@200 D10-@200
S18	180	上端筋 下端筋	D10, D13-@200 D10, D13-@200	D10-@200 D10-@200

符 号	スラブ厚		位 置	短辺方向(主筋)	長辺方向(配力筋)
	元端	先端			
CS15A	150	120	上端筋 下端筋	D10, D13-@200 D10-@200	D10-@200 D10-@200
CS15B	150	150	上端筋 下端筋	D10, D13-@200 D10, D13-@200	D10-@200 D10-@200

＜参考図＞ 浄化槽底板・天板 配筋図 1/50







一 般 事 項	
コンクリート	$F_c = 21 \text{ N/mm}^2$
鉄 筋	SD295A
鉄筋かぶり	スラブ 40
	ベース 60
定着及継手	40d
地 業	砕石又はRC 40～0

注1) 上部は歩行者荷重とする。
注2) 図中の“G、L”は浄化槽位置での仕上げレベルを示す。
注3) 地耐力は40KN/㎡以上必要とする。
(実際の工事業者が確認後施工の事)

参考数量書

§ 工事名称 (仮称) 鞆町平地区ふれあい広場便所新築工事

§ 工事場所 福山市鞆町後地地内

特記事項

- 1 この数量書は、福山市建設工事請負契約約款 1 条に定める「設計図書」ではなく参考数量です。従って、契約後の変更等を含意するものではありません。
- 2 数量の算出は次の基準によっています。

※ 「建築数量積算基準・同解説」 (建築工事積算研究会制定)

設 計 書

工事名称 (仮称) 鞆町平地区ふれあい広場便所新築工事

工事場所 福山市鞆町後地地内

【工事概要】

構造 RC造 平家建て
規模 延べ面積 36.0㎡

附属建物 東屋 RC造 一部 S造 平家建て
延べ面積 17.1㎡
その他 縁台、テーブル・ベンチ 他 外構

【別途工事】

土工事
電気設備工事
給排水衛生設備工事

名 称	数 量	単位	金 額	備 考
直接工事費				
建築工事	1	式		
計				
共通費				
共通仮設費	1	式		
現場管理費	1	式		
一般管理費等	1	式		
計				
工事価格	1	式		
消費税等相当額	1	式		消費税率 10 %
工事費	1	式		

公衆便所					
名 称		数 量	単位	金 額	備 考
仮 設		1	式		
土 工		1	式		
地 業		1	式		
コンクリート		1	式		
型 枠		1	式		
鉄 筋		1	式		
防 水		1	式		
石		1	式		
タ イ ル		1	式		
屋根及びとい		1	式		
金 属		1	式		
左 官		1	式		
金属製 建具		1	式		
塗 装		1	式		
内 外 装		1	式		
仕上ユニット		1	式		
排 水		1	式		
外 構		1	式		
発生材処理		1	式		
計					

公衆便所					
科 目 名 称	中 科 目 名 称	数 量	単位	金 額	備 考
仮 設	直接仮設	1	式		
計					
土 工		1	式		
計					
地 業	一般地業	1	式		
計					
コンクリート		1	式		
計					
型 枠		1	式		
計					
鉄 筋		1	式		
計					
防 水		1	式		
計					
石		1	式		
計					
タイル		1	式		
計					
屋根及びとい	とい	1	式		
計					

公衆便所					
科 目 名 称	中 科 目 名 称	数 量	単位	金 額	備 考
金 属		1	式		
計					
左 官		1	式		
計					
金属製 建具	鋼製建具	1	式		
計					
塗 装		1	式		
計					
内 外 装		1	式		
計					
仕上エント		1	式		
計					
排 水		1	式		
計					
外 構		1	式		
計					
発生材処理		1	式		
計					

福 山 市

福 山 市

福 山 市

福 山 市

福 山 市

福 山 市

福 山 市

福 山 市

福 山 市

福 山 市

福 山 市

福 山 市

福 山 市

福 山 市

福 山 市

公衆便所 外 構						
名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
根切り	総掘り 自立山留め内	80.5	m ³			
根切り (擁壁・車止め)	つば, 布掘り 深さ2.5m程度	13.5	m ³			
床付け	つば, 布掘り	8	m ²			
埋戻し(B種) (擁壁・車止め)	小規模土工 発生土	9.1	m ³			
コンクリート舗装	JIS A5308 FC=18 S15 粗骨材20 t=200	194	m ²			
コンクリート舗装 (管理道部分)	JIS A5308 FC=18 S15 粗骨材20 t=200	32.4	m ²			
コンクリートポンプ 圧送	100m ³ /回以上 基本料金別途加算	240	m ³			
コンクリートポンプ圧送 基本料金	100m ³ /回以上	1	回			
コンクリート打設手間	土間ポンプ打設 50m ³ /回程度 S15～S18 － 圧送費、基本料別途	240	m ³			
U形側溝	300A ー 再生クラッシュラン	10.8	m			
車止め	差込式 1000×700mm 蓋・錠付	3	基			
擁壁	型枠、コンクリート等含む 材工共	16.6	m			
根伐り 浄化槽	つば, 布掘り 深さ2.5m程度	37.3	m ³			
砂利地業 浄化槽	RC40 t=40	0.8	m ³			
捨てCON 浄化槽	JIS A5308 FC=18 S15 粗骨材20 t=100	0.8	m ³			
底板 浄化槽	JIS A5308 FC=21 S18 粗骨材20	1.2	m ³			
天板 浄化槽	JIS A5308 FC=21 S18 粗骨材20	0.8	m ³			
鉄筋運搬費	4t車 30km程度	0.1	t			
鉄筋コンクリート用 異形棒鋼	JIS G3112 SD295 D10	95.6	kg			
鉄筋コンクリート用 異形棒鋼	JIS G3112 SD295 D13	28.3	kg			

福 山 市

福 山 市

福 山 市

福 山 市